北支
現地編輯
THE NORTH CHINA
12

雲崗石窟全景

雲崗石佛

北京驛から京包線下り列車で約十二時間、三等片道五圓七十五錢、夕方發てば南口、八達嶺、張家口を過ぎて翌朝大同に著く大同の城內及び郊外には寺院廟宇の見るべきものが多いが、とびきり名高いのが雲崗の石佛である。ここは明治三十五年我建築界の權威伊東忠太博士の發表以來世界に知られた支那佛敎文化、美術史上の至寶である。我が東方文化研究所で計畫された大同一帶の石窟調査は事變のため中絶されてゐたが、再び外務省並に華北交通會社後援の下に大々的硏究調査が現に進行中である

雲崗は大同城の西約七哩、遊覽バス（一日二回往復一圓五十錢）約四十分で達する一寒村だ。附近は散在する楊樹と泥作りの民家、石佛寺の殿閣など閑寂な雰圍氣。この邊り武周川の左岸に連るジュラ紀砂岩の臺地で、その河蝕斷崖を利用して無數の石窟を穿ち、その中に大小無數の佛像が彫刻してある。全體は東西に長く（約千二百米）南面して素燒色の斷崖は離れてみると蜂の巣のやうだ。石佛寺と云ふのは石窟分布區域の略中央にある、崖に接して建てられた片屋根四層の古びた殿堂を指す。昔は全體にこんなお寺があつたものらしい

石窟の築造は西紀四六〇年北魏の沙門統曇曜の進言によつて始められた。當時支那は佛敎入つて以來既に四百年以上を經てゐた頃であるが、時の北魏第三世太武帝は深く道敎を信じてあらゆる佛像佛經を破壞燒却し、少長や沙門を悉く生埋にした。帝崩じて孫の文成帝卽位するや（興安元年、西紀四五二年）直ちに復興の詔勅を出した。この石窟の築造はその滅罪供養のためであり、北魏建國以來の五帝に對する追孝供養のためであると

謂ふ。また沙門曇曜からすれば付法相傳[illegible]て佛法を永遠不滅にする念願であつたであらう。（尤も創始年紀、緣起については學者間に諸說あり、工事期間は前後略百年にわたるものと推定される）石窟は東の第一窟から西に數へて第二十窟迄を普通は三つに區分し、更に西方の分を第四區とする

▽第一區は第一より第四窟迄。第一、二窟は同形式で中央に塔柱を彫り遺す。風化甚しいが尙見るべきものあり。第三窟は全窟中規模最大なるも未完成、入口突當りの丸彫に近い佛坐像と左右の脇侍は堂々たるもの

▽第二區は第五より十三窟迄。第五窟は石佛寺境內東にあるもの、窟の東西徑二十二米、南北十八米の廣大さで、中央本尊坐像の高さ約十七米。四壁は數多の佛龕を七層に分けて鑿ち、壯麗を極める。第六窟は同じく寺の山門を入つて正面、四層樓に接した窟。まさに北魏藝術の頂點を示して全支那石窟中第一と云はれるもの。窟內中央に大方柱を彫り遺し、四面それぞれ佛龕を彫む。窟の周壁亦窟龕を連ね、意匠の豐富さ、技巧の精麗さ驚嘆すべきものあり、殊に釋迦佛よりとつた浮彫は興趣をそゝるものがある。五、六兩窟は孝文帝時代の作と推定される第七窟には三層樓がついてゐる。第八窟と同形同意匠であるが、第八窟（佛籟洞）の入口拱の內側に濕婆天像（東）毘紐天像（西）を刻んであるのは中印度文化との交流を思はせて興味深い。美術的にも優れてゐる

第九、第十窟は同形式で內陣と外陣があり、內陣への入口拱門の浮彫圖案には印度の影響が見える。但し兩窟共後世補修の劣惡さが眼立つ第十一窟も同樣補修されてゐるが、この窟東壁の上部には太和七年（皇紀一一四三年）の造像銘がある

▽第三區は第十四より二十窟迄。このうち第十四、五の兩窟は破損剝落甚しい。

第十六窟から第二十窟迄の五窟は文成帝が太祖以下五帝のために開いたと謂はれるもの。うち最も大きなのは第十九窟で中洞の東西徑二十米、南北十米半、本尊の高さが十三米以上である

よく寫眞やポスターに現はれる露生の大佛は第二十窟に當る（無論最初は窟內にあつたのが崩れたのだ）

▽第四區——以上の他更に西方に多數の小窟佛龕があり、第二十一窟（千佛洞別名塔洞）がある。何れも補修の跡無く考證に便利なので注意する人が殖えた

この宏大且つ貴重な遺跡を保存すべく、新たに甦生した蒙古聯合自治政府では委員會を設けて計畫を進めてゐる。尙支那には河南龍門、同じく鞏縣の石窟があり世に三大石窟としてひろく知られてゐる

大露佛

第三窟本尊

第六窟菩薩像

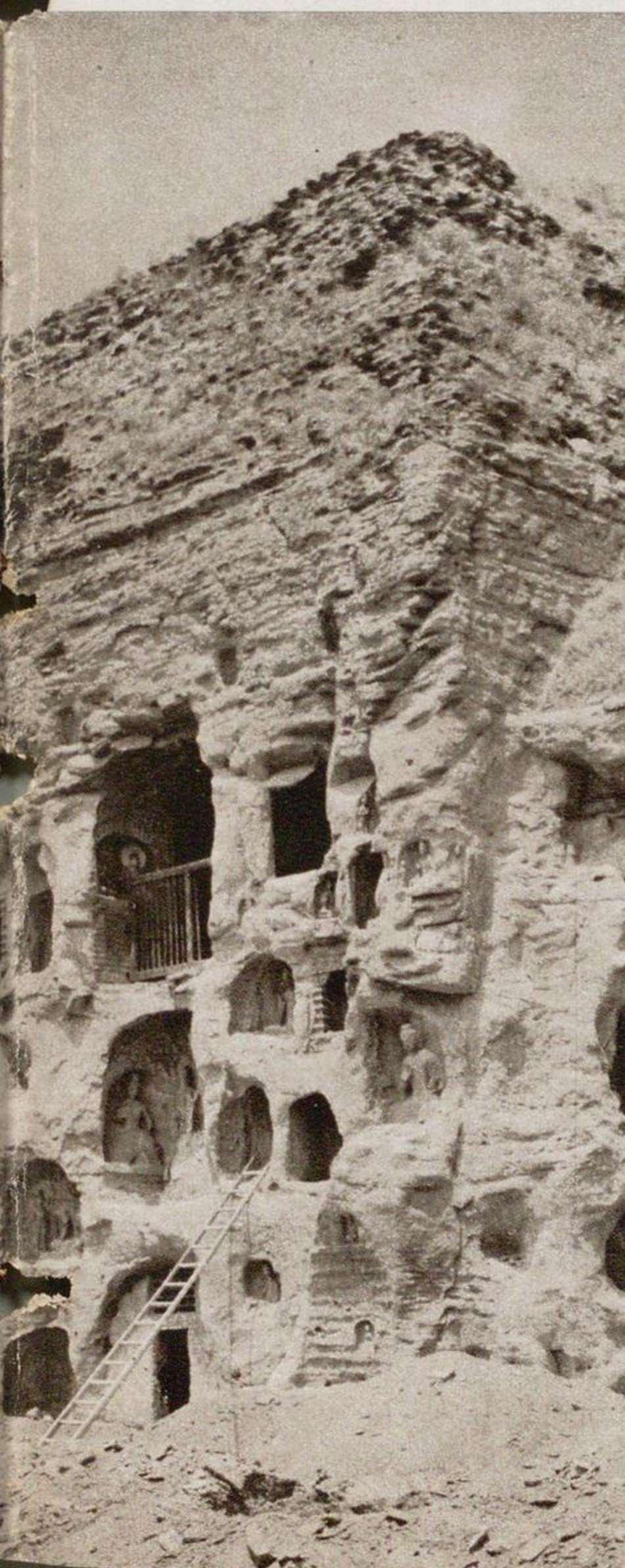
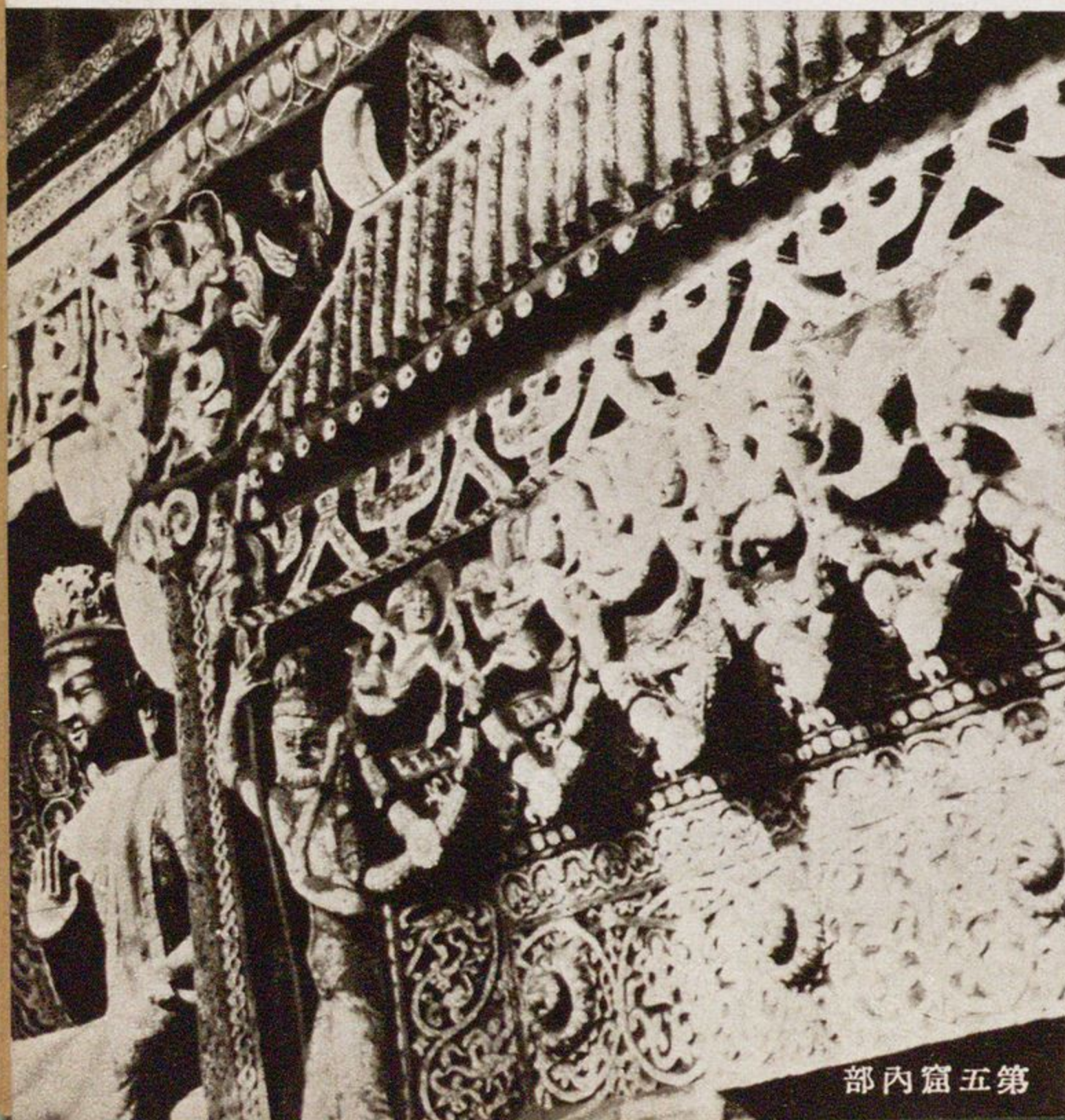
釋迦傳の浮彫

第五窟內部

蜂の巢のやうな石窟外觀

第八窟毘紐天像

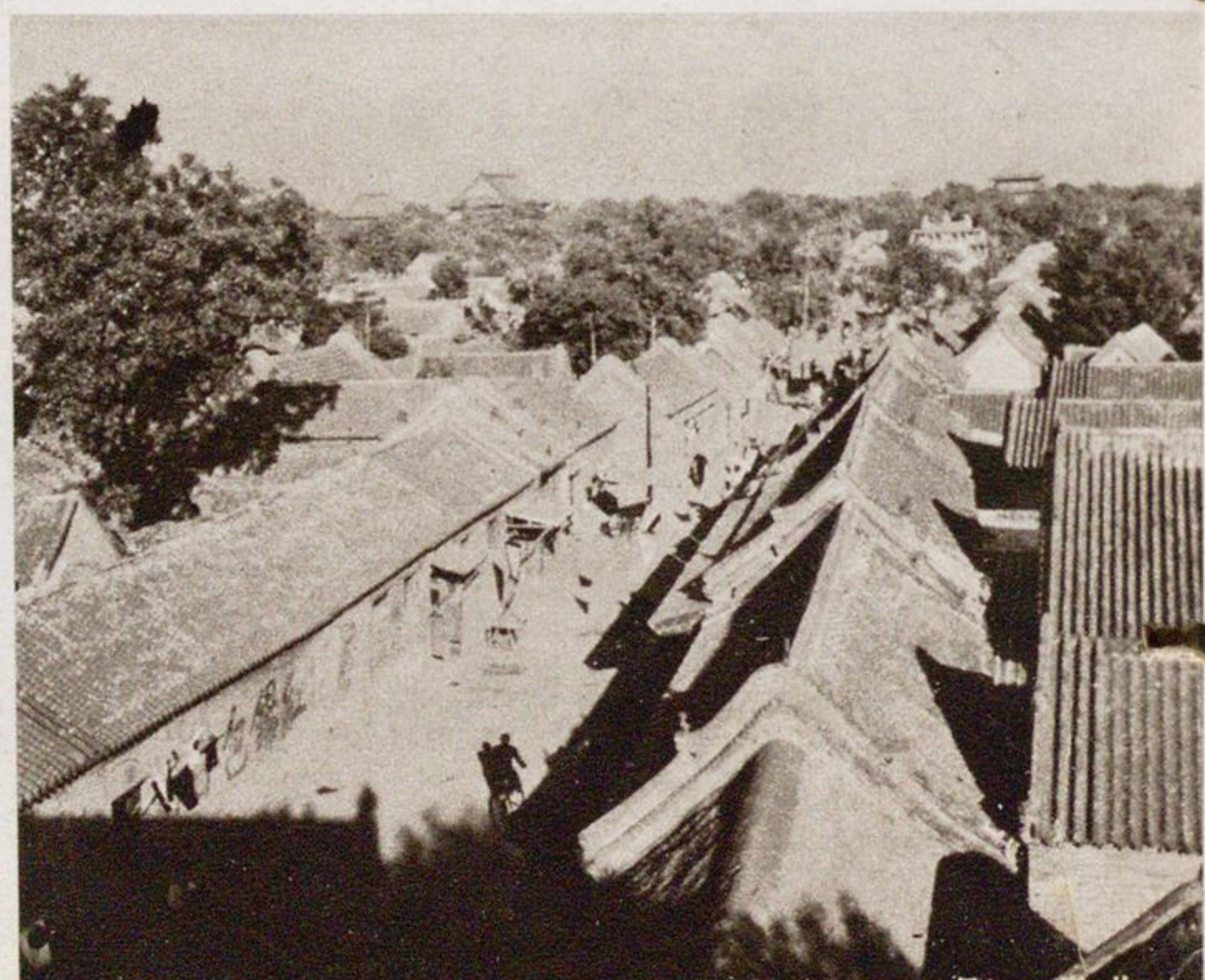
浮彫細部飛天像

聖林参道

曲阜

CHUFU, THE BIRTH-PLACE OF CONFUCIUS

曲阜は津浦沿線の濟南と徐州のほぼ中間にあり、天津から南下すれば約十四時間、浦口から北上すれば約十七時間でつく縣城は古の魯の國の都で、魯城とも言はれる。現在の城廓は明時代の修築で高さ約二丈、周圍約三十町、人口は一萬たらずである。孔子生誕の地として一般に知られ、孔子の廟及び墓があり、孔子の後裔が之を守つてゐる。事變前まで、この壟や廟に參拜するのは華人よりも外人の方が多く、「四億の華人中儒教を奉ずる者寥々、論語を念ずる者日人のみ」と言はれたのである。事變後臨時政府による政教一致、東洋精神文化宣揚を念願とする孔子祭の復活、小國民に對する孔孟の教への徹底等の眞摯な實行とともに華人間に「孔教尊崇」の熱が澎湃として起り、曲阜は全華人崇敬の中心として甦つた。孔子の墓は縣城の北方約七町にあり、孔林又は至聖林と呼ばれてゐる。面積約六十萬坪、周圍に高い城壁をめぐらし城廓のやうになつてゐる。千年の老柏生茂る中に孔子を首め七十餘代の孔子の一族と、諸弟子の墓がある。孔子の墓の高さ二丈のすり鉢山で一面に草木に覆はれ、周圍は老樹が欝蒼としてゐる。南側に元の武帝が追贈した稱號により「大成至聖文宣王之墓」と大書した碑が建つてゐる。碑は明時代の作孔子廟は明の萬暦二十二年（約三百年前）の改修にかかるもので、規模の宏大、殿廡の壯麗なことは支那廟祠中の首位にあり、金碧の殿堂燦爛として壯嚴を極めてゐる

孔子廟大成殿

孔子の墓

孔子祭

CONFUCIAN FESTIVAL

新東亞建設に目覺めつゝある中國民衆の間には、最近とみに孔孟への崇敬の念が昂つてきた。各學校でも西洋かぶれした從來のやり方から、東洋固有の徳育へ立返へらうとしてゐる。十月九日（陰暦八月二十七日）孔子誕生日を迎へた北支各地の孔子廟の盛大な祭典は澎湃たるこの機運を物語るものであらう
この日孔子生誕の地曲阜では孔子第七十六代の後裔孔令偶氏を首め、唐山東省長代理、曲阜縣首腦部および我が來島、川崎両部隊長等が參集、孔子二千餘年の聖徳を偲ばせる豪壯な大成殿に於て、古式豐な七聲の鉦の音を合圖に厳な祭典が擧行された

大成殿の内部と孔子像

鐵道通信鳩

「最後の頼みは通信鳩でした。私の生命を助けてくれたのはこの鳩です」と、赤いつぶらな目をした鳩を撫でながら、匪賊の襲撃を受けた或る驛員が當時の感慨を洩らした。電線が切斷され、無電には故障を生じ、銃の彈丸も殘り少くなつた場合、頼るものは鳩だけである。昨年五月京漢線の某地點で敗殘兵のため皇軍の軍事行動が妨碍されようとした時、これを未然に防いだのは華北交通會社の通信鳩であつた。又本年六月末から北支の各地を襲つた大洪水の際、復舊工事現場と後方の連絡に任じた彼等は一日數十回の電報を運んで殊勳をたてた。いま約二千羽の鳩が北支鐵道全線に限なく配置され、華北交通社員と共に興亞の聖業目指して可憐な活躍ぶりを示してゐる

RAILWAY BOY-SCOUT

全軍行進

揃ひの制服に隊杖をになひ、二本のレールを挾んで颯爽と行進する少年隊の一團があります。新大陸の鐵道を護る愛路少年隊です。この少年隊は線路を巡察したり、匪賊の情報を探つたりする一種の鐵道警備隊であります。「愛路」と染め抜いた隊旗を携へ、信號用の手旗や自動電話機まで備へてゐて、線路妨害や故障を發見したり怪しい者を認めたら直ぐその旨を本隊へ通報することになつてをります時には驢馬の手綱をとつて畑地を耕したり、大根を播付けたり、小麥の刈入をやつたりして百姓の稽古もします。新大陸の明日を擔ふ理想的な少年として明朗に規律正しく鍛へられるのです。號令や用語は全部日本語です。北支蒙疆の鐵道七千キロ、その兩側各々十キロの地域は洩れなく鐵道愛護村であり、村の少年達は全部愛路少年隊になるのです。年齢は十一歳から十七歳迄。各驛がその本部で隊長は驛長さん。副隊長は警務團員、分隊長、班長はそれぞれ少年隊員の成績優秀なものから選抜されてをります。殊勳を樹てたものや模範少年隊には、特に賞狀や賞品が授與されます。日支親善は先づ愛路少年隊から……數ある華北交通會社の施設のうちで、最も成果を囑望されてゐるものゝ一つです

沿線の巡察

畑いぢり

鐵道愛路少年隊

驢馬も出動

表彰される呉少年

電話連絡

TAIYUAN, THE CENTRAL CITY OF SHANSI

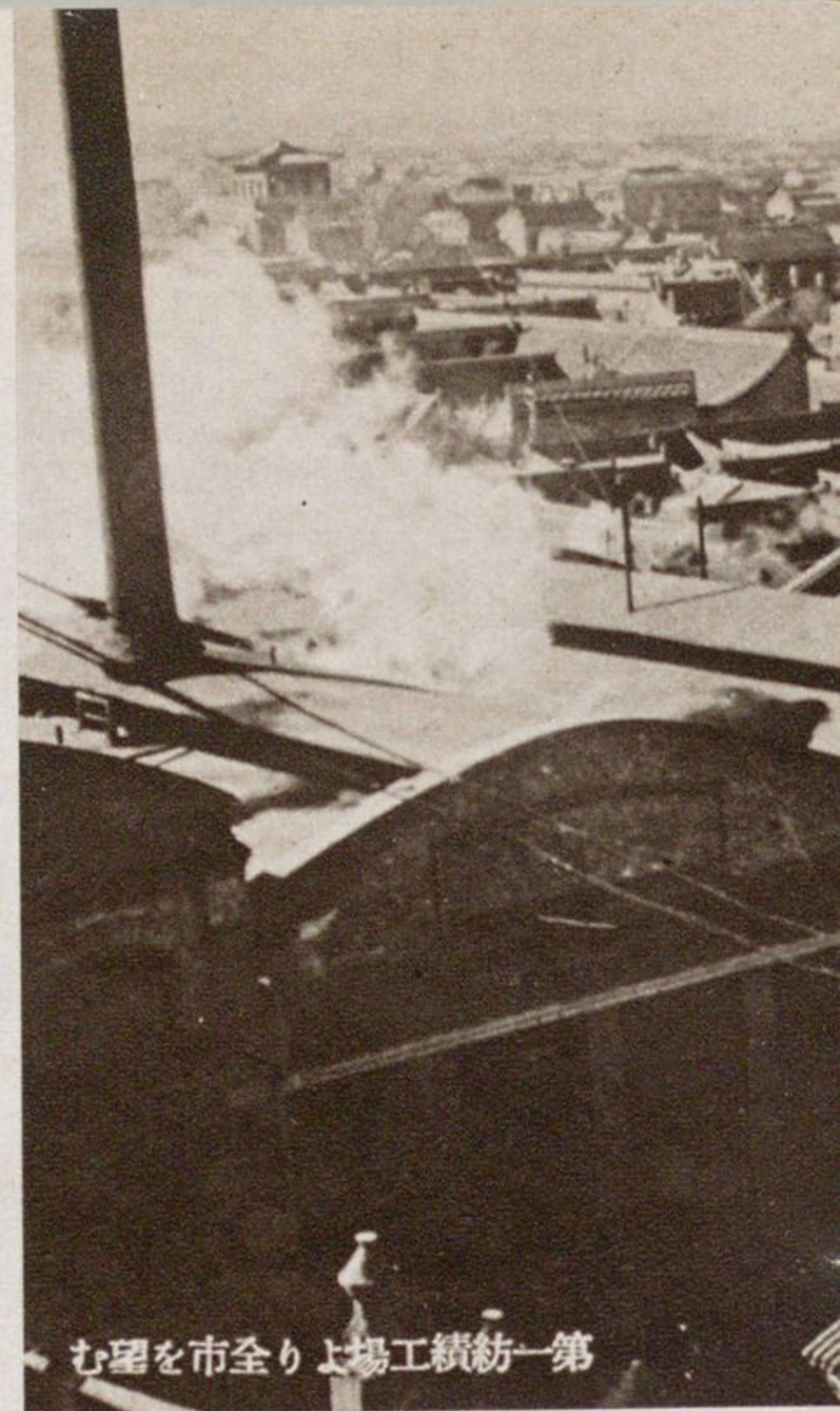
太原

太原は山西高原地帶の中央にある。石太線によつて石家莊を西に二四三粁、同蒲線によつて大同を南に三六〇粁の地點に在り、人口約十五萬を數へる

この地方は支那文化發祥の地と云はれ、古來冀州、并州、太原、太原府、河東道、冀寧道等と稱した。民國の初年から今次の事變に至る迄、山西モンロー主義を唱へ山西の山野に君臨した閻錫山の本據であつた

城內は街衢整然としてモダンな街燈や赤青のゴーストツプがあり、柳巷街の目拔を始め商店街の賑かさは想像以上である。閻錫山が「造產救國」「建設山西」を叫んで築いた大規模な製鐵所、發電所、兵器廠など大小四十餘の工場が殘つてゐて閻錫山ありし日の鬱勃たる野心のほどを物語つてゐる

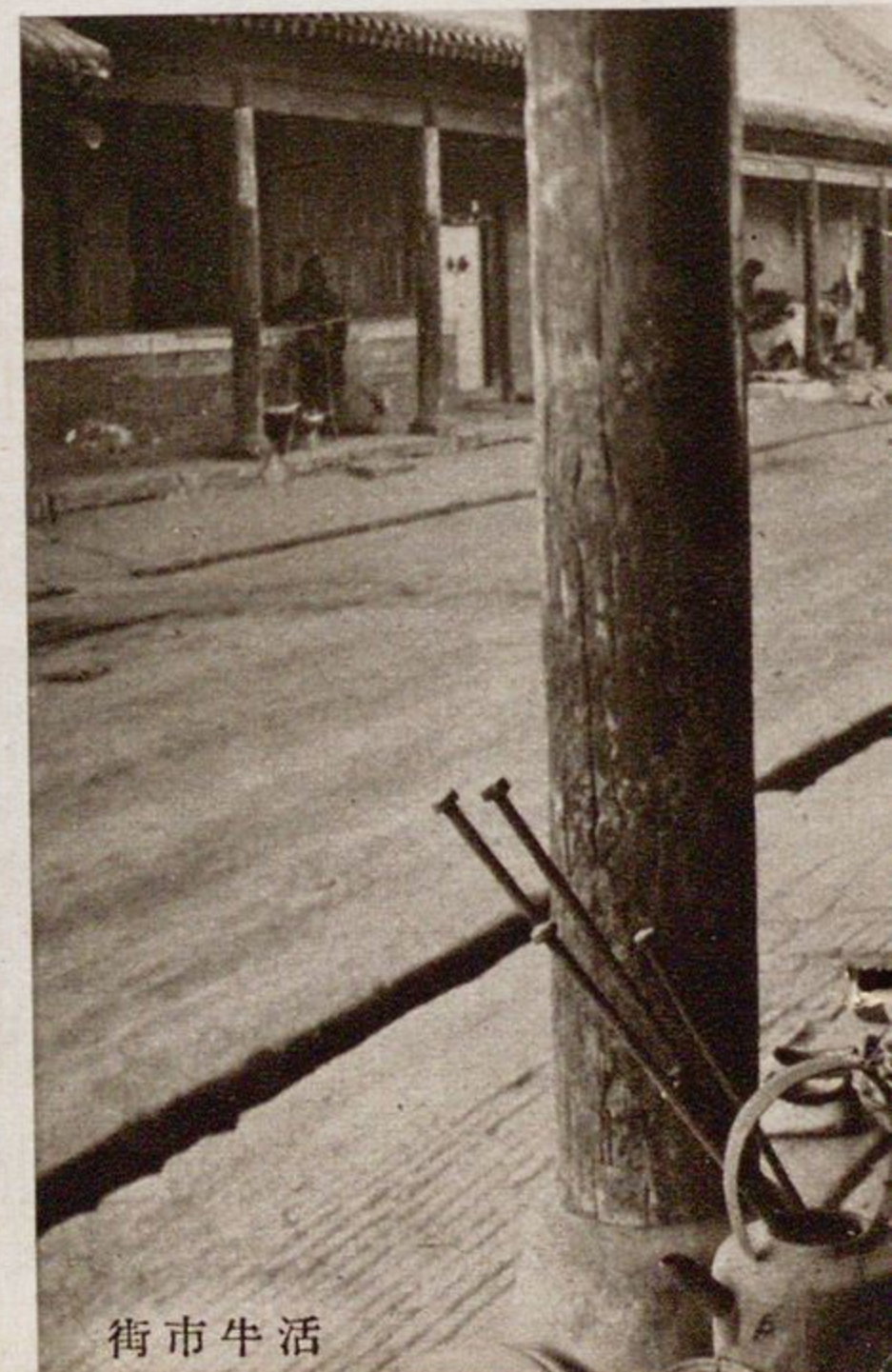
鼓樓

第一紡績工場より全市を望む

事變後これらの諸工場は軍の管理工場となり日本側の手によつて經營され事變前以上の好成績を擧げてゐる。種目は鐵、石炭、鹽、紙、羊毛、綿糸布、麵粉、煙草、燐寸等廣範圍に亙り、資源開發の進捗と石太線の標準軌道化による輸送力の增大と相俟つて今後の發展が注目される

事變前三十餘名に過ぎなかつた在留邦人は本年六月末既に七千名を越え躍進的增加を示してゐる

活牛市街

首義門の上より

正陽門の朝

DAYBREAK AT CHEN YANG MEN

北京安定門内の清眞禮拜堂

清眞回回

MOHAMEDDAN IN NORTH CHINA

全支の回教徒は、凡そ三千萬といはれる。そのうち北支の回教徒は三百萬である。華北回教聯合總會では、河北省西部二市八十六縣を北京區、河北省東部一市四十四縣を天津區の二つに區分し、更に山西の太原、山東の濟南、蒙疆の張家口、包頭の四ケ所に區本部を置いてゐる。都市別に教徒數を擧げれば北京二十萬、天津十二萬その他は人口の各一割見當を占めてゐる

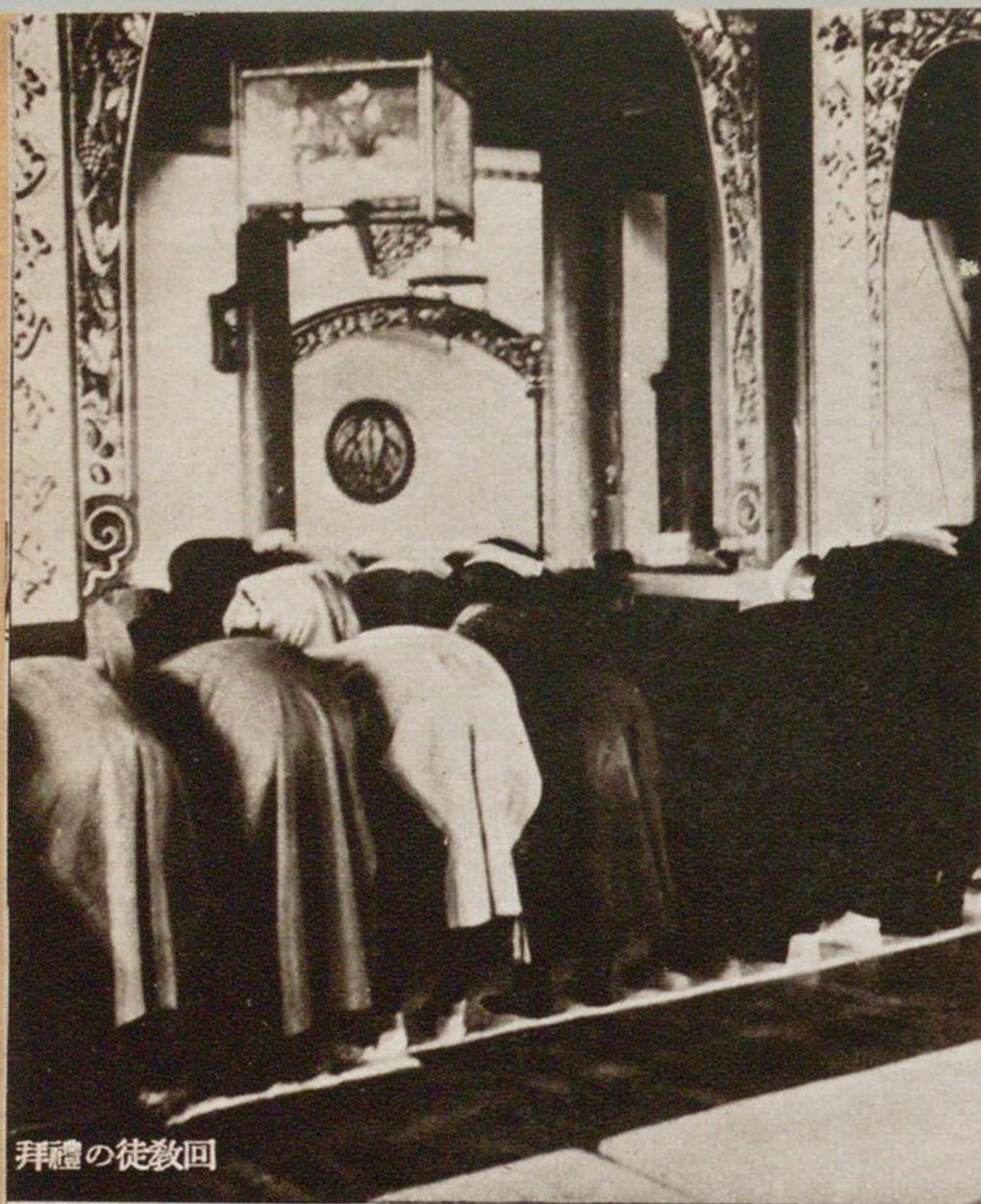
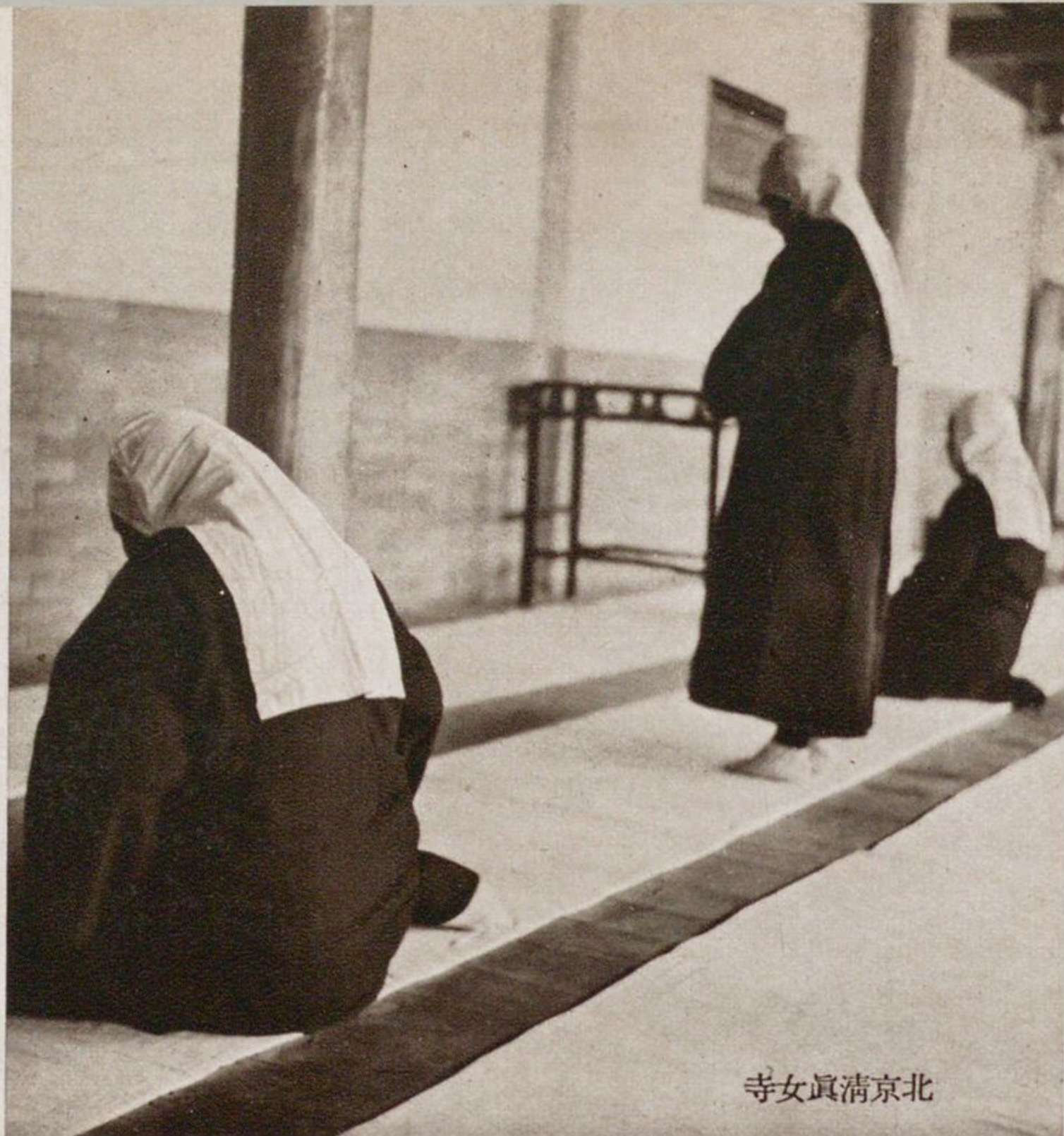
北京には昭和十三年二月中國回教總聯合會が結成され、全支の教徒と緊密なる連絡を圖つてゐる。隨つて北京の回教徒を語る事は、北支の回教徒を、やがて全支の回教徒の動きを語る事にもなる。北京には回教寺院いはゆる清眞寺が四十六ケ所ある。最も有名なのは宣武門外の西大寺と東大寺で共に官寺となつてゐるが、外に五ケ所清眞女寺がある

支那ではマホメツトの事を謨哈默德、コーランを古蘭經と音讀して、俗に謨教または清眞教、伊斯蘭教と呼んでゐる。北京では宣武門外牛街一帶と哈達門一帶、朝陽門門外、德勝門外、阜成門外とが教徒の中心地である。その他市内隨所に於て「回々」「西域」「清眞回々」「回々教門」とかアラビヤ文字の扁額や看板を揭げてあるのが眼を惹く。回教徒の標である。生業としては主に獸皮獸骨商や飯店、風呂屋、菓子屋、大道商人、翡翠商などが多く駱駝貿易も回教徒に多い。斯の如く取引交易の範圍が偏しすぎ、且また極度の信仰心から勞役を疎にしすぎた結果生活程度はあまり高くないやうである

北支の教徒は殆ど漢回（漢人系の教徒）に限られてゐる。だから一見してそれと判別し難いが、その生活樣式が纒回（ターバンを卷いたトルコ人系の教徒）

回教徒の禮拜

北京清眞女寺

小淨——禮拜の前に足を淨める

清眞回回 2

に等しく豚肉酒類、阿片煙草類を絶對に嗜まず、羊肉や鷄肉を用ひ、信仰勤行の態度で自ら識別することができる。禮拜堂には偶像といふべきものは一つもない。毎日五回禮拜をなし、その都度大淨、小淨の沐浴を行ふ。暦も學童を除く外は矢張り回教暦が多く一年を三百五十四日に分け、金曜日を日曜日としてゐる

茲に注目すべき事は日支事變に刺戟された北支の回教徒が、元山東省長馬良將軍や中國回教總聯合會委員長を兼ねる西大寺教長王瑞蘭氏、同氏の後繼者王連鉦氏や劉錦標氏などを中心として政治經濟、教育文化方面に對して目覺しい活動を開始した事である。先づ機關紙發行、文化委員會、日支研究會、日本觀光會、青年會、婦人會を組織し、更に小學校、女學校、中學校を設立して一般教徒やその子弟の發展向上に努めてゐる。この外中堅幹部育成のため回教青年中央訓練所を設け軍隊式の猛訓練を實施してゐる

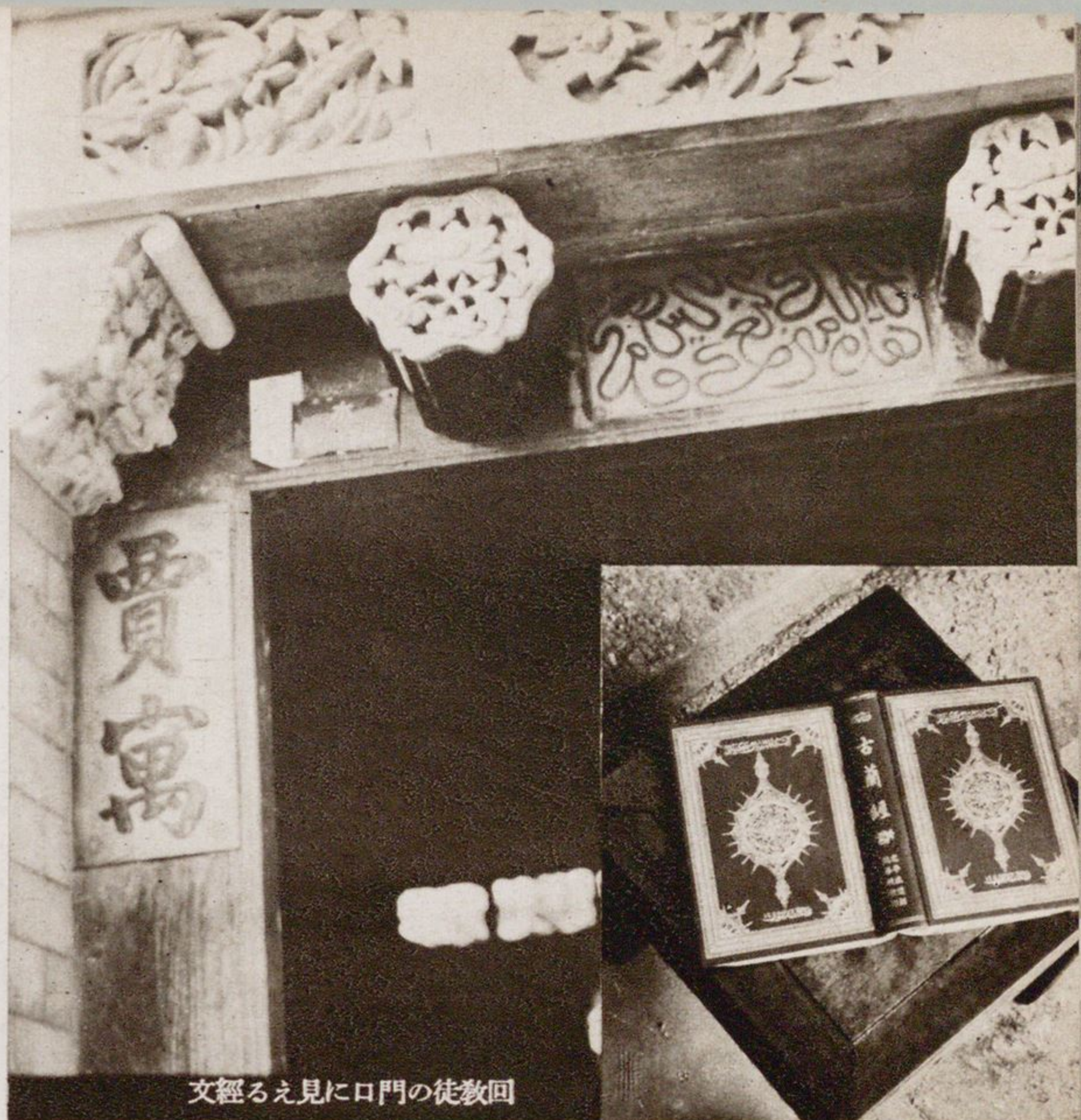
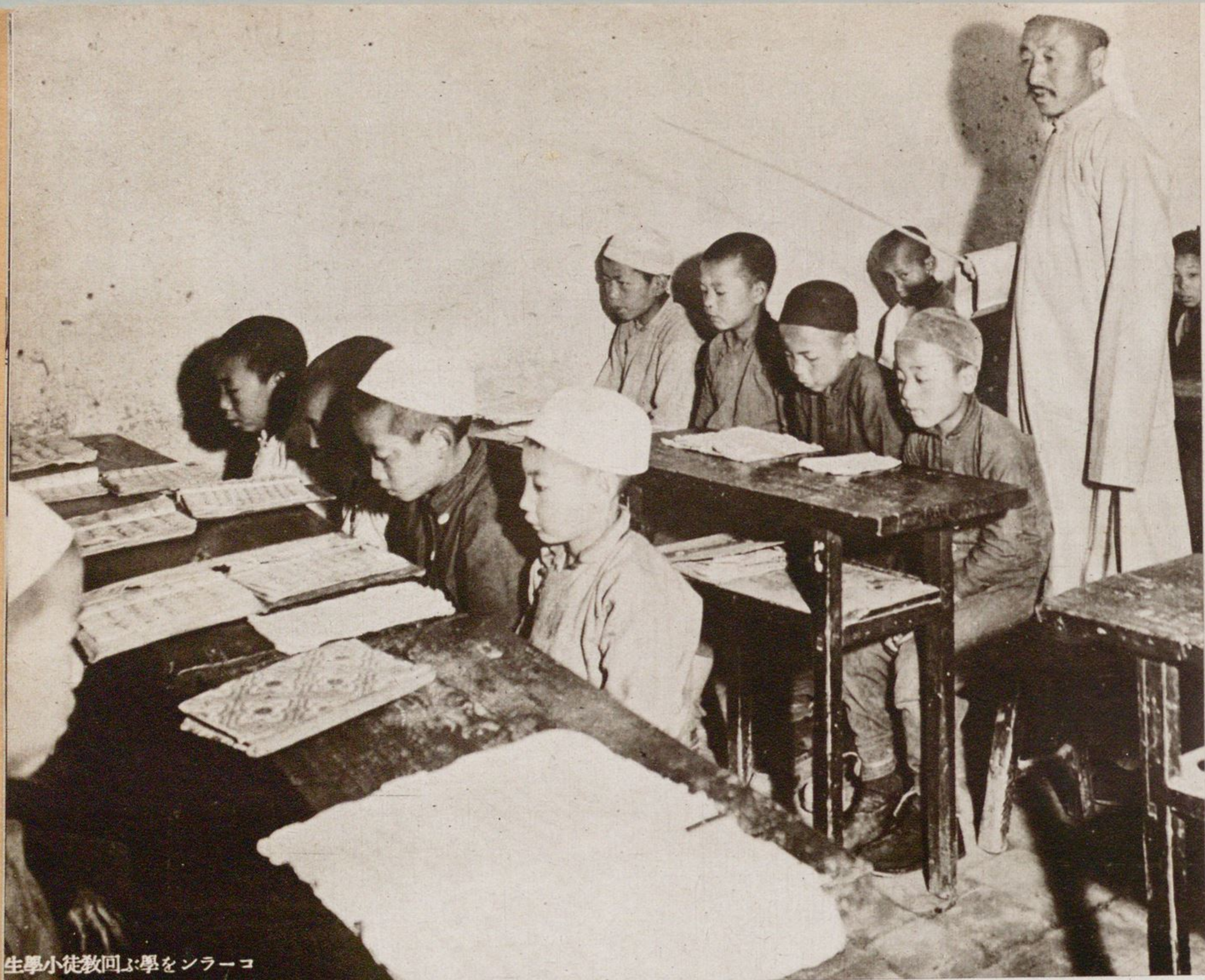
學校では小學校から日本語を正課としてゐる。男女中等學校や青年訓練所ではアラビヤ語のコーラン研究が週二回であるのに對し、特に日本語を週四回も課して東亞新秩序建設に最大の力を致すやう孜めてゐる。「堅決團結一致護教」「主張中日滿提携」「絶對擁護新政權」「打倒萬惡的共産黨」の四大スローガンを掲げた是等の回教民族の動向には種々の角度から注目すべきものが多い

回教徒の門口に見える經文

回教徒料理店の看板

コーランを學ぶ回教徒小學生

回教徒理髪店の看板

回教徒の飲食露店

喇嘛廟屋上の吹奏

包頭の廟會

喇嘛の踊

LAMAIST DANCE IN PAOTOU

ラマの踊りといへば蒙古の踊りといふに等しい。蒙古の踊りはラマ踊り一色に塗り潰されてゐるからである。外にオボ祭踊りがあるがこれもラマ踊りの變形にすぎない

ラマの踊りは降伏の踊りといはれ、三種に類別される。供養の踊り、地鎭の踊り、打鬼の踊りで、一般に興味を持たれるのは打鬼の踊りである。打鬼はラマ教を迫害した西藏のランダルマ王を膺懲する踊りで、ラマ廟祭に於ける一種の御神樂であり、悪魔退散を意味する追儺の踊りである

打鬼の踊りに移る前に、先づ熊、象、犬等の獸畜類の面を被つたラマ僧達が太鼓や喇叭、銅羅の伴奏で終日または二日がかりで踊りつゞける。その最後に演ぜられるのが打鬼の踊りである。甲冑に身を裝つた二人の鬼を中心に、夜叉や牛鹿の面を被つたもの、文珠菩薩や十地菩薩に扮したものが太鼓銅羅の伴奏に連れて縱横に跳舞する。その間ラマ僧達は經を誦し牛鹿の役が鬼を殺す仕草を以て終る。蒙古の歌謠音曲は調子に變化が尠いため、踊りのテンポも頗る單調に流れ、殆ど手足を中心とするものばかりで腰の躍動がすくない。鈍重でグロテスクな踊りである

出來上つた支那鍋

鐵工廠

IRON CASTING

支那に於ける鐵器の製作は周時代に始まり、漢の時代には中央アジアを通つてローマに輸出され、各國から集つて來る鐵器の中でも最良のものであつたと云はれてゐる。このやうに歐洲まで名を轟かせた支那の鐵工業が、今ではその面影もなく衰微してしまひ漢時代の鎔鑛爐の跡さへないとはまことに殘念である

北京には五十餘の鐵工廠があるけれども、大きいところでも資本金五千元から一萬元程度の家內工業の域を脫してゐないものばかりである。支那鍋、ストーブ、車輪、その他各種の小鑄物類を製作してゐるに過ぎない

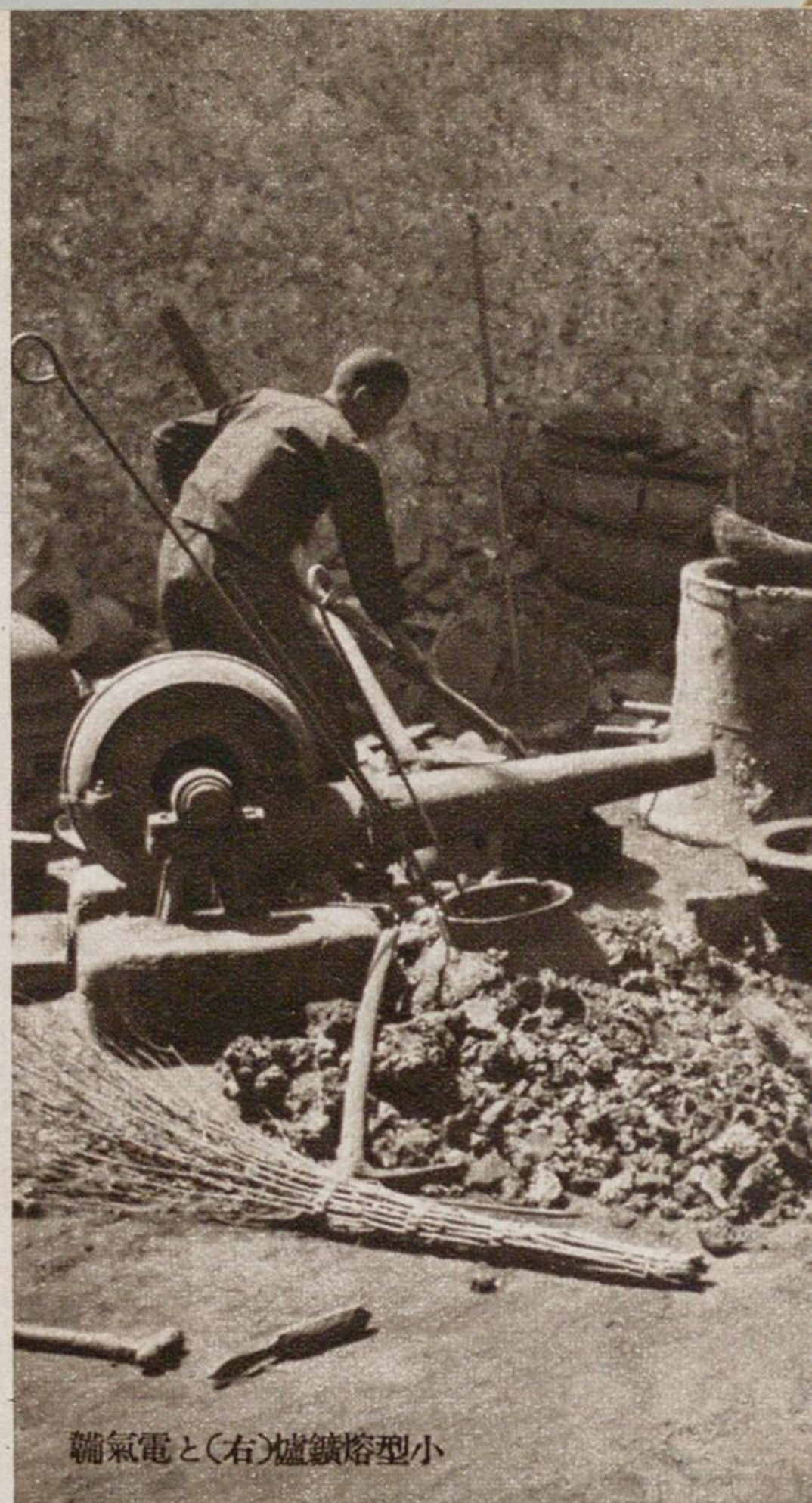
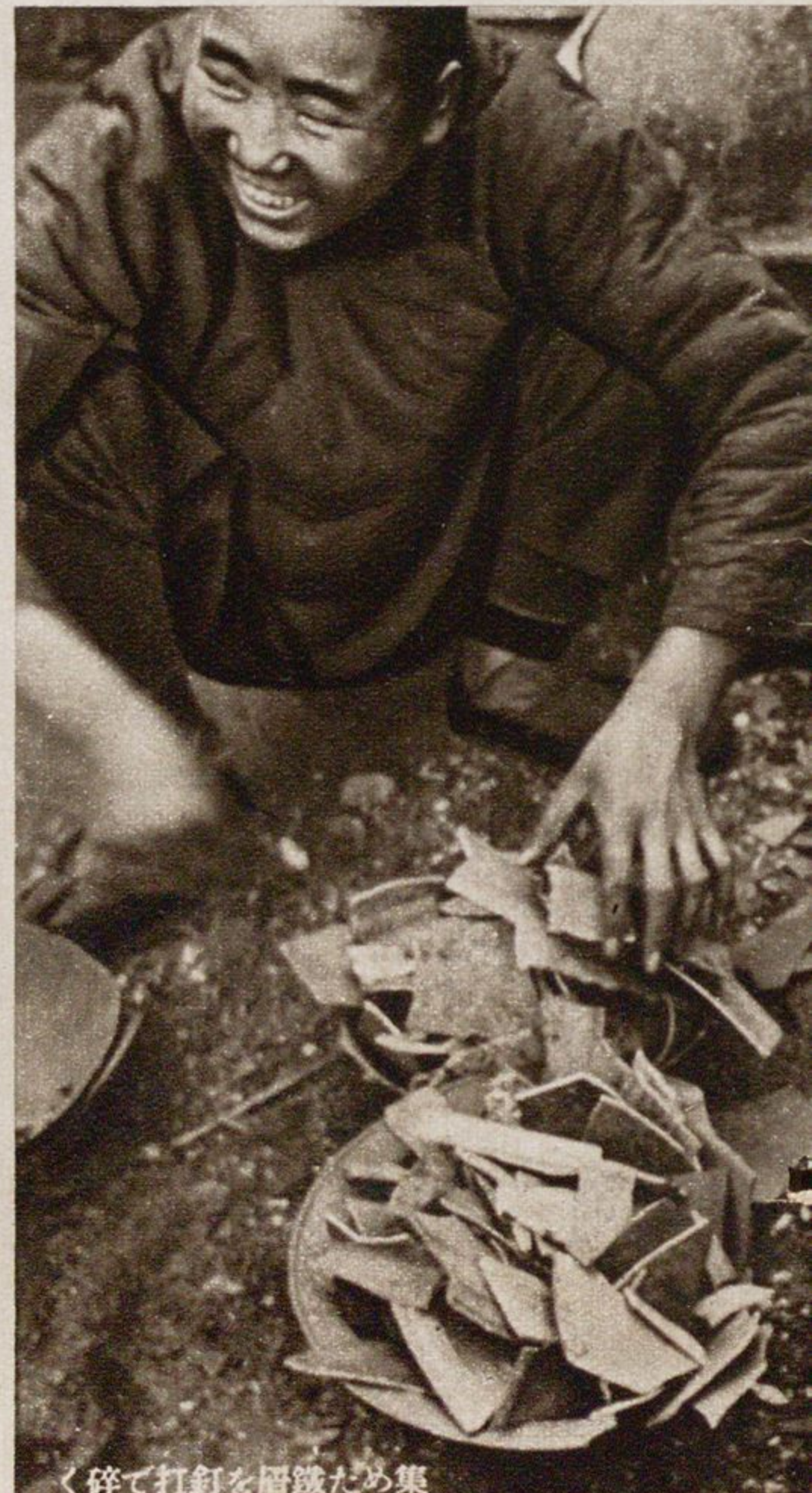
町の鐵工廠での材料は總て車輪のかけらや古鍋等の屑鐵が使用される。製作方法は至極簡單で高さ五尺直徑三尺許りの圓い鐵壺の中に、細く打碎いた屑鐵と石炭粉を入れ、小さな電力で風を送り込み、石炭の燃燒によつて屑鐵を鎔解し、これを鍋や車輪等の鑄型に流し込んで製作するまことに幼稚な方法である。工人も十人から十五人、工賃は月二十元から三十元位。然し之等の鐵工廠も事變後、日本の新しい技術と經營法を取入れつゝあるから、近き將來昔の隆盛を取戻す時代が來るであらう

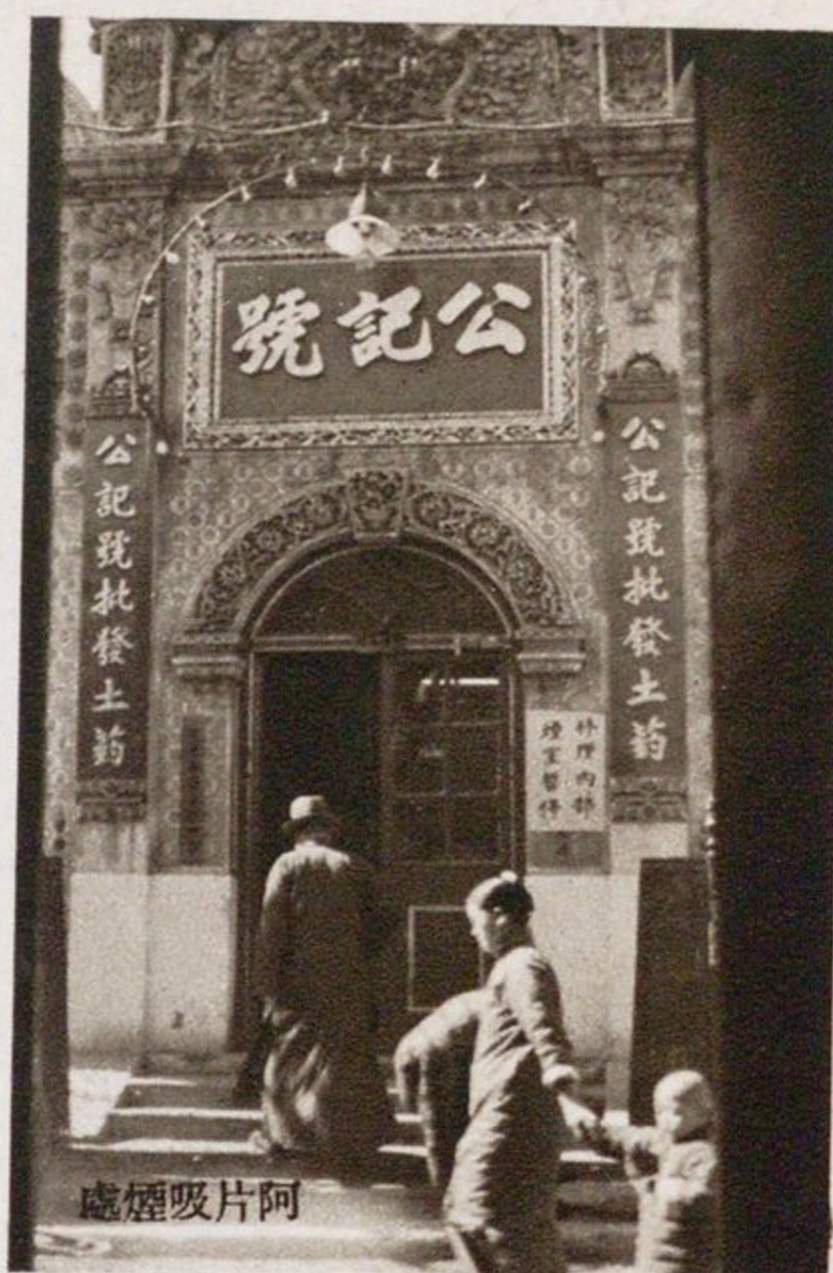
鐵棒で攪混ぜながら原料を熔す

小型熔鑛爐（右）と電氣鞴

鑄型に鐵を流し込んでから如露で水をかけて冷す

集めた鐵屑を釘打で碎く

THE OPIUM

阿片

北京の街のあちこちに阿片を喫ませる店がある、と云ふといかにも變な氣がするけれども、支那に來て馴れてしまへば當り前だと思ふ。それ程普及してゐるので、北京だけではなく阿片吸飲の風は全支に見られる。たとへば日本の酒場のやうなものだ。また一般家庭でも中流以上になるとちやんと阿片室を設けた家が多い。それは日常の交際にも使はれるので、享樂主義で交際好きな中國人の一面が分るのである。

阿片吸煙處

日本で禁酒令が出たとしても酒は無くならぬだらう、同様に支那でも阿片禁制に無關心であつたわけではなく禁令は出てもどうにもならぬのである。國際聯盟も法令も根深く浸みた事實の前には屁のやうなものだ。

蓋し阿片程玄妙不可思議なものはあるまい。酒の醉境が陽性外向的なのと反對に阿片は陰性内向的で、耽溺に於てはより純粹かも知れぬ。それだけ一度俘囚になつたらなかなか脱けられぬ亡國的魔藥に違ひない

實に歐洲資本主義の對支進出は十九世紀初頭かの阿片戰爭によつて始まつたので、以來百年、英國が支那に築いた勢力は殆ど阿片のお蔭である。支那は國産の阿片だけでは間に合はず、年々莫大な額を印度から輸入して來たのだから

さて阿片吸飲の道具をみると、流石に永い間洗練されただけ、立派な美術工藝品として見られるものが多い。無論ピンからキリ迄あるが、何せすつとした道具を見、あの一種獨特の妖臭を嗅いだら矢も楯もなくなるだらうと思はれる。

1 煙槍・即ちキセル。大小あり、豪奢なもの、粗末なもの色々ある。火口は先端につけたのもある

2 煙板・③のヘラでこの上に阿片膏を練る

3 煙籤・片方では膏を練り、片方針狀になつた方で火口を調節する

4 灰扒・火口を掃除するもの

5 煙灰盂・灰皿である

6 煙夾・膏を取出すピンセット

7 煙燈・アルコール豆ランプ。これに火口をかざし乍ら膏を燻らし、吸口からヂューヂューと吸ふ

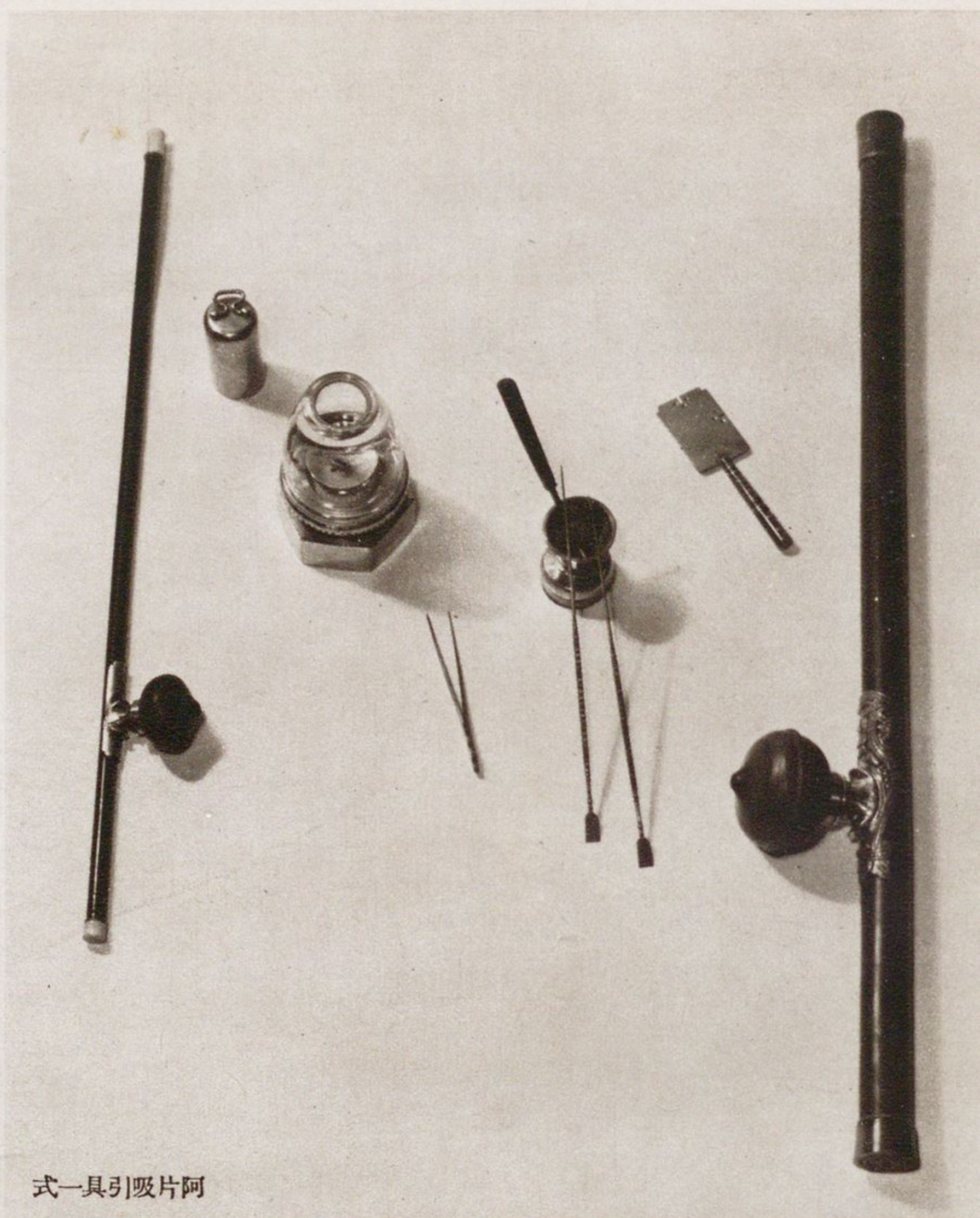
8 煙盒・阿片膏入れ

阿片の道具を賣る店

煙槍の吸口

煙燈

阿片吸引具一式

吸煙

大きな歴史

小さな歴史 1

NEWS-FLASHES FROM NORTH CHINA

集まつた慰問袋をかゝへて

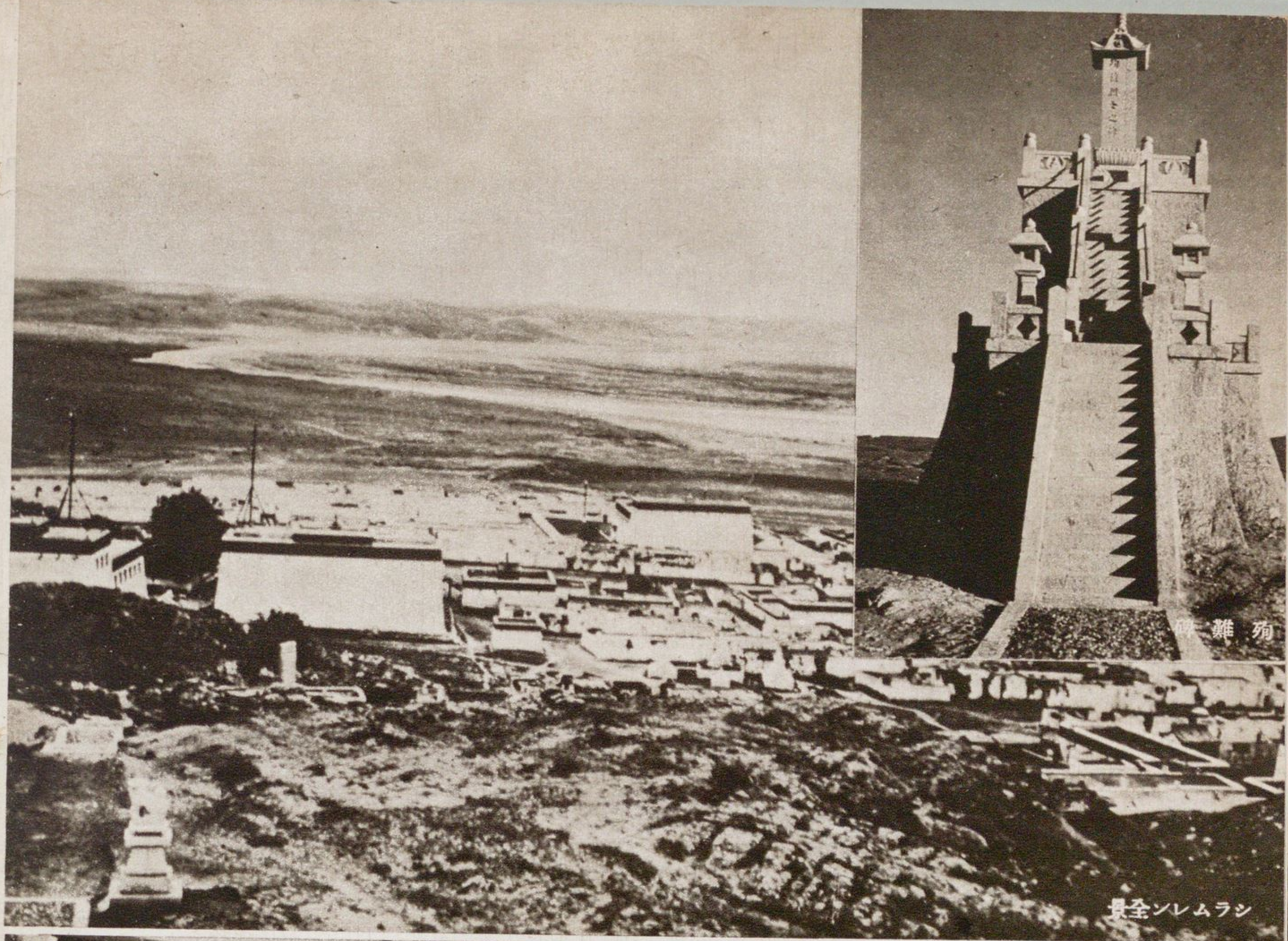
小麥粉廉賣所

▽物價高に喘ぐ中國民衆の食料難を救ふため我が皇軍は小麥粉十萬袋を北京市公署を通じて分配、華人はいづれもこの温情に感激した

▽十月三日から行はれた銃後々援强化週間に際し、北京では祈願日、節約日、感謝日、慰問日などを設け、興亞第一線における銃後精神を强調した

小麥粉廉賣所に風呂敷を差出し順番を待つ

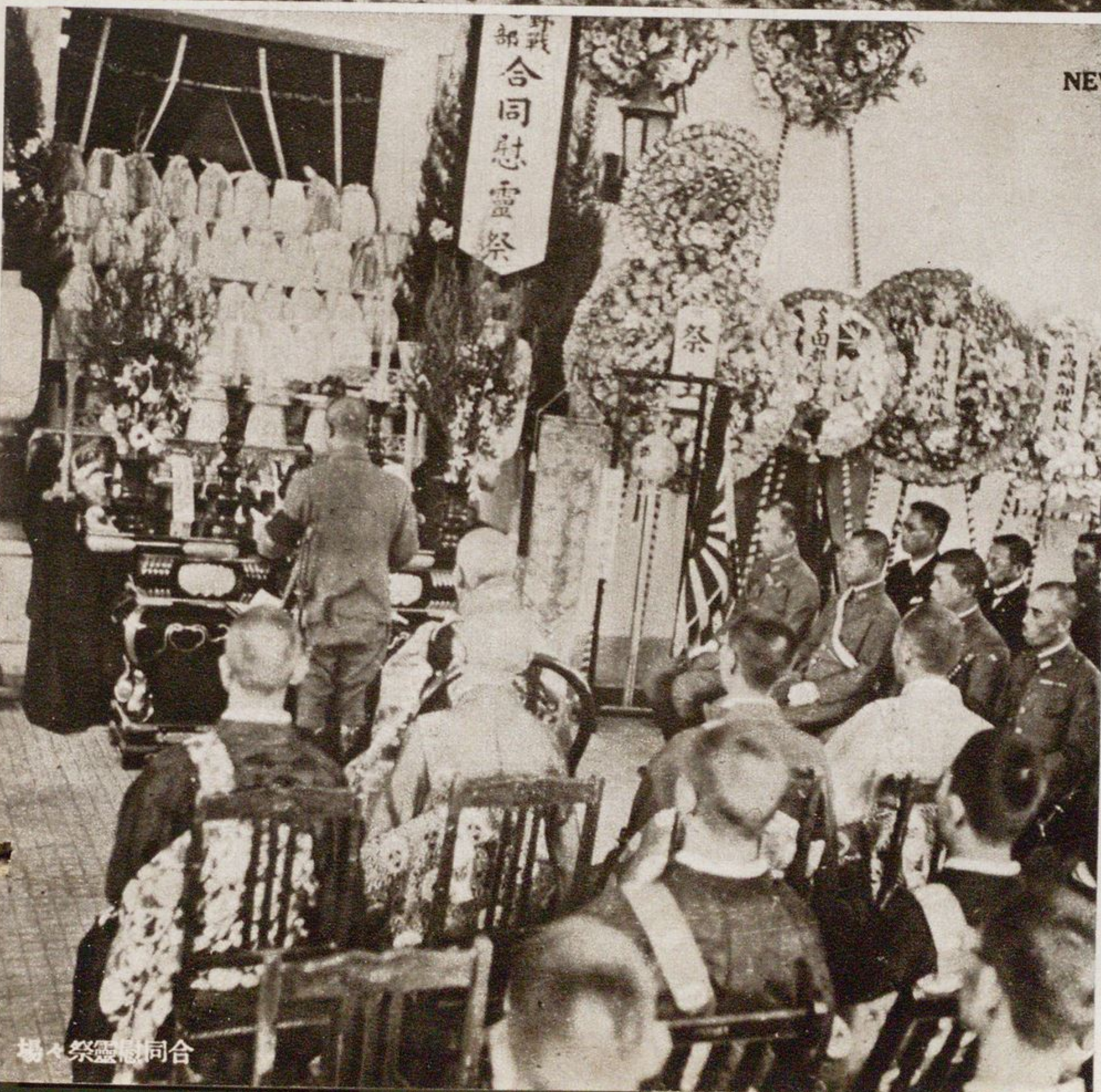
殉難碑

シラムレン全景

NEWS-FLASHES FROM NORTH CHINA

大きな歴史 小さな歴史 -2

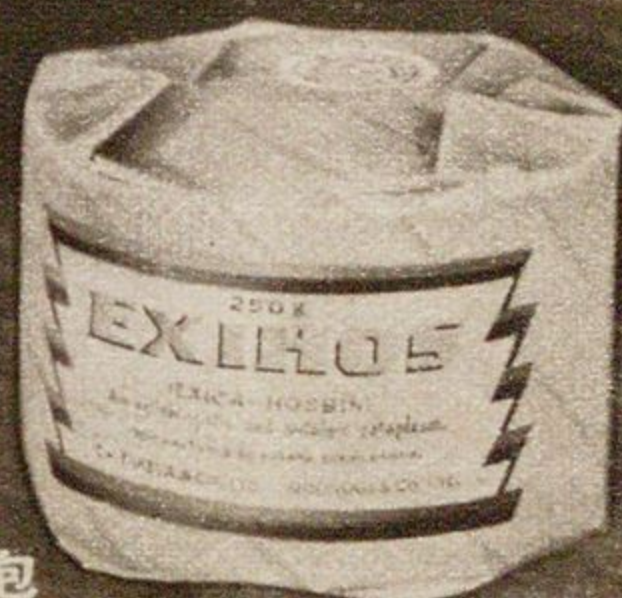
▽昭和十一年十二月九日、德王を中心とする内蒙義軍（綏東事件）のために、當時の綏遠省主席傅作義軍と戰つて、壯烈な戰死を遂げた小濱大佐以下二十九氏の殉難碑が思ひ出の地シラムレンに建てられた。この中には滿鐵社員も九名、蒙古自治の礎として殪れた。十月九日、嚴かに除幕式が行はれ、朔北の地に邦人の英靈が永久に祀られることゝなつた。

▽九月二十三日午後三時、北京の西本願寺で第二野戰鐵道司令部管下の英靈三十五柱の合同慰靈祭が執行された

合同慰靈祭々場

北支蒙疆の自動車と鉄道

北支蒙疆の鐵道延長　七、〇〇〇粁
北支の自動車路延長　八、五〇〇粁
蒙疆の自動車路延長　四、五〇〇粁

南方の水運に對して北方は陸運が重要、蓋し古來南船北馬と言はるゝ所以である。全支那の鐵道一萬三千粁中、北支蒙疆は七千粁を占めてゐる。而も人口一萬人當りの北支鐵道は僅々〇・七粁で、濠洲はおろかブラジルにも及ばない。滿洲に對しても一對六で、鐵道密度を滿洲の程度に上げるためには尙五、六萬粁の建設が必要だ。鐵道網のかやうに稀薄な北支蒙疆に於ては、自動車が、鐵道の補助或は培養機關として重要な役割を持つ

華北交通會社は、今春四月創業の當時北支蒙疆の鐵道及水運の經營と共に、五千五百粁の北支自動車路線の經營を引受けたが、二ケ月後の六月には六千粁に伸長し、九月末には八千五百粁と躍進せしめた。これに蒙疆汽車公司經營の四千五百粁の自動車路線を加へると、北支蒙疆の全自動車路線は現在一萬三千粁に達する。昭和十七年末には北支だけで二萬粁突破の見込みで、一方華北交通では四ケ年計畫で一千名の自動車從事員の養成に努めてゐる。更に鐵道沿線の愛護村（路線左右それ〴〵十粁）の例に倣ひ、全自動車路線の左右それ〴〵五粁を愛護村に組織し、民路合作の實を擧げ、治安工作上に多大の功果を收めつゝある。近代國家の交通事業は、往々鐵道と自動車との激烈な競爭に惱まされてゐるが北支に於ては滿洲に於けると同樣兩者を綜合し、一貫經營の妙味を發揮してゐる。上記の略圖を一見すれば、自動車路線（太黑線）が鐵道の補助乃至培養線として能くその職能を果しつゝあることを容易に看取出來るであらう（黑線の間を白く拔いてあるのは蒙疆汽車公司經營路線）

新支那の交通問題

古家誠一

汪兆銘氏を中心とする新中央政權は遂に實現の第一歩に入つた。東亞新秩序建設が既成事實となるのも愈々近づいた。

各地方政權は既に全幅の支持を確約してゐるのであるが、これ等地方政權が如何なる方略の下に合流統合されるかについては未だ何れの側からも明らかにされてゐない。

地域的に見て新中央政權は、當分の間は日本軍の占領地域を據點として成立を見ることは現下の情勢上已むを得ないところであらう。その結果實質は兎に角、少くとも外形上、奥地遁入の敗殘蔣政權と對立して正統爭ひをなすことであらう。このことは新中央政權に可及的急速に內、占領地域內に於ける建設を現實化して新中國の中核となし、外積極的に擴大を圖り、殘骸政權を最後的に潰滅する絶對命令を與へるのである。

新政權による既存地方政權の統合方式や新中央政權の機構などは未だ明らかにされぬとはいへ、大勢の赴く所は所謂「分治合作」の方式を採るものと考へられる。各地方政權は全幅の支持を聲明してはゐるが、各地方政權によつて夫々成立の經緯があり、沿革的にも地域的にも特殊事情はともすればこれに拘泥することがないとは云へぬ。かくて新中央政權は必然的に既成局地政權との合作連繫につき所要の調整に腐心せねばならない。こゝに所謂分治合作の複雜性があり、困難がある。同時に新中央政權の果すべき使命の重大さも理解されるのである。

從來中國に於ては統一と經濟建設とは不可分の問題とされてきた。即ち眞の國內統一と國內の建設とは一つである。

經濟建設の礎石として延いては國內統一の推進力として交通、就中鐵道はこゝに重大意義を持つのである。新中央政權の成立と共に直ちに中國の鐵道を如何にするかと考へるのも亦故なしとしない。宜なる哉舊國民黨政權によつて樹てられた經濟五ケ年計畫中にも次の如く樞要地位が與へられてゐる。

一、幣制の確立、並に全國金融制度の統一
二、全國土地制度の根本的改革による租稅體系の改善
三、交通運輸事業の統一的發展
四、水利失修の回復
五、農、鑛、林、魚、牧畜等の原始産業開發及商工業の發達

舊政權時代に於いてすら鐵道、航空道路の如き交通關係事業の進捗によつて中國の統一は急速に推進されたことが認められる。

反面鐵道、航空、道路の如き全國的の施設を以てする事業は當然强力な中央政權の確立と統一によるを利便とする。このことはその他の大規模の産業的施設についても同樣と言へよう。

交通は地域によつて制約を受くべきものでなく、却つて地域を跨ぎ、距離を克服するところにその本來の使命があるのである。これを自然發生的に見るも特に鐵道は經濟建設の直接の觸手として敷設または延伸されるのであつて、單なる行政區劃に制約されてゐては到底その本然の機能を發揮し得ない。特に事變前に於てたとへその經營方法が拙劣であつたにしても、又或る場合實權は外國人の手に掌握されてゐたにしても形の上では兎も角、全中國

內容

の鐵道が中央集權的に運營されつゝあつた。事實事變前の數年間は中國に於いては鐵道と自動車路の建設の最も活潑だつた時期で相當の發展を見た。しかし乍ら交通の發展に便乘すべき產業界が外國工業の壓迫と封建主義的舊勢力の壓力下に、僅かに餘喘を保つてゐるのみの情況にあつては、却つて自縄自縛たゞ外國の貨物に恰好の輸送路を提供するに過ぎなかつた。從つてかゝる事實より見れば凡そ經濟建設は均衡を得せしむることこそ重大であつて、建設過程上、獨り鐵道の功績のみを過大評價すべきではない。だが鐵道の經濟建設史上に持つ效果は壓倒的なものがある。

故孫文總理が鐵道十萬キロ計畫を樹てたのも、中國の建設に何よりも鐵道の建設をその前提條件としたであらうことは首肯し得る。

交通の發達が一國の政治經濟の上に如何に至大の影響を與ふるかは北米合衆國に於て、當時鐵道が、若し東西に通ぜず南北に通じてゐたならば、或ひはかの南北戰爭が起らなかつたであらうと言はれたのを見ても思ひ半に過ぎよう。卽ち鐵道の開通を契機として、それまでミシシツピー河の天然の交通路により、メキシコ灣頭のニューオルリヤンスに結ばれてゐた中部がニューヨーク、フイラデルフイヤ、ボルチモア等の大西洋岸諸港に引きよせられ、その結果、中部地方の農產物は東部地方の工業製品と交流するに至り、東部地方の金融勢力もこれに從つて浸透し東部と中部とは拔きさしならぬやうに結びつけられるに至つた。史家の傳ふる如く、南北戰爭が、東部の商工業地帶と南部の棉花地帶との政治、經濟的角逐の結果とすれば、これに鐵道の演じた役割もまた偉大なりと言ふべきである。

されば鐵道は國內資源を開拓すると共に全國を一元的に相互聯關性をつけるのである。

中國目前の急務として鐵道により經濟的紐帶を造り上げることを最も重視する所以またこゝにあるのである。經濟的紐帶はやがて政治的、文化的に結ばれる前提であり、そして步一步有機的組織體として同化して行くであらう

叙上は政治經濟的地理的觀點からの考察であるが、觀點をかへて鐵道政策上から考察して見よう。

現在中國の鐵道は左の通り北部に偏在してゐる。(民國二十四年六月現在の鐵道部直轄の鐵道)

北部　四、七一六、三六〇粁
中部　二、七五一、七八〇粁
南部　五三八、三一九粁

更に民國二十三年七月から二十四年六月までの一年間の鐵道財政狀態は、北部(京漢、北寧、津浦、膠濟、京綏隴海、正太、道淸各線)で收入一億三千三百萬元、支出八千四百萬元、純益約四千九百萬元、中部(京滬、滬杭甬、粤漢北段、南尋各線)で、收入二千八百萬元、支出二千一百萬元、純益七百萬元、南部(粤漢南段、廣九各線)で收入六百五十萬元、支出五百二十萬元、純益百三十萬元であり、これによつても北、中、南部に於ける鐵道の實勢力が窺へよう。

この事實により、少くとも中、南部に於ける鐵道網を北部程度に引上げる必要が認められる。勿論、中國全體は北部をも含めて全般的に極めて密度の低い點は爭はれない。從つて今後、新線敷設計畫は益々積極的に推進せられねばならない。

而してこの建設計畫を財政的にカバーする爲には中國の全鐵道が有機的に統合一元化されてはじめて可能ではあるまいか。

かの滿洲產業五ケ年計畫に於て豫定の一〇〇%以上も突破して一萬キロに達せしめた輝く成果を顧みるがよい。七ケ年に新線建設四千餘キロを克く成し遂げ得たのはいふまでもなく、拮据經營三十年の滿鐵の潜勢力、卽ち會社固有線を據點とした爲である。

中國に於ても今後新線の建設を可及的急速に遂行するためには北、中部特に北部に既存する鐵道網を一元的に綜合してエネルギー源とするが當然の事理であらう。

最後に鐵道運營上より考察するも、中國經濟全般に對して均衡を得たる運輸政策を實施しセクショナリズムを排除するためにも、全中國の鐵道が一元的に運營される必要がある。新中央政權が、その經濟產業政策を施さんとする時、特に諸政策の基調たるべき鐵道が局部的に分離されてゐては、たとへその間充分の連繫がとられ、協調が計られるとするも、所詮は隔靴搔痒の弊は免れぬであらう。

由是觀之、新生中央政權が眞乎の建設を遂げ、眞乎の統合を成就せんとするならば、その鐵道政策は忽緒に附し得ない。鐵道は建設の槓杆である。これに對する力の入れ具合によつて建設は促進され若しくは妨げられる。新中央政權の下に於て、鐵道が如何に扱はれ、如何なる使命を擔はされるかによつて、新政權從つて新中國の前途がトされるであらう。

アラーの使徒

小節 幹

敎徒三億二千萬を有する回々敎の内容ほど複雜なものはない。殊に敎徒の生活狀態は奇異を極める。寺院の建築から獨特である。本堂と禮拜所とあり必ず東面して立つ。それに水垢離場とも稱す可き沐浴場が連なる。禮拜所の近くに明白樓があり、更に相對して望月樓が聳える。明白樓は回々敎を表象する新月を拜する高樓で、此處から陰曆九月一日の新月を觀る事ができればその翌二日から三日間を正月として大いに慶祝する。不幸にしてこの夜の新月が觀へねば、次の新月を拜するまで正月を順延せねばならない。

そこで問題となるのは回々敎曆であるが、彼等は古代からアラビヤ曆を使用するので一年三百五十四日となり、新月の出現を毎月の一日とし、日沒の時刻を一日の初めとする。隨つて金曜日が日曜日になり、十一月が正月といふ事になるが一年を十二ケ月に分つ事だけは普通曆と變らない。回々敎曆ではこの十二ケ月の中に神聖な月が四つある。それは一月、七月、十一月、十二月で、一月は神聖なる月といはれ戰爭や爭鬪の禁止される平和な月と考へ七月は尊敬すべき月と稱し、十一月は休戰の月または定住の月と呼んで、各敎徒は家庭に留まり仕事に勤しむ月とされ、十二月は彼等の憧憬する巡禮の月である。巡禮の月とは聖地メツカ詣りの事で、祭禮はこの月の七日から十日迄カーバの神殿に於て盛大に行はれる。回々敎徒は一生に一度は必ずメツカへ參拜すべきものとされてゐるので、この月は各國の回敎徒四、五十萬が萬里の波濤を乘越えて雲霞の如くメツカへメツカへと集つてくる。同時にこの巡禮者目當の大道商人が幾千となくテントを連ね沙漠の中に時ならぬ萬國市場が展開される。祭典は實に嚴肅崇嚴を極めカーバ神殿の周圍を七回めぐるに始まり、サフアー及びマルヴア二丘陵の間を七往復し、次いでメツカを距る二十五キロの聖山アルフアツト山に詣り禮拜祈禱を終へ、更にムツダリツフの平原に至り萬國回敎神聖大會に移る。

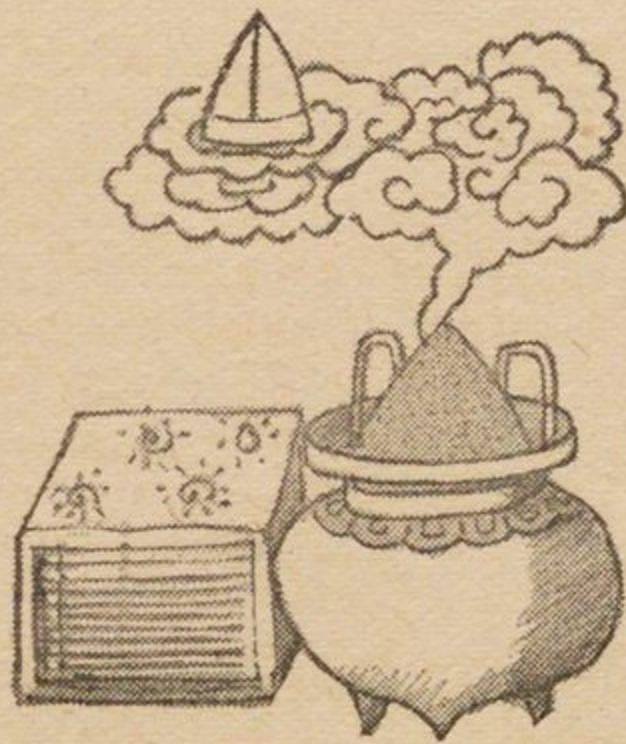
此處で各國の回々敎徒は各自政治思想、國際情勢などに關する熱辯を振ひ回敎民族の奮起結束を高唱する。回々敎徒の動きを知るには最も都合宜き會合である。これが終ると更に五百キロの沙漠を渡り第二の聖地メヂナを訪ね、茲にはじめて特別のターバンを頭に卷く事を許されハヂの稱號を得る事になる。然しメツカは回々敎徒以外のものには絕對に入國を禁止する。異敎徒が入國すれば神の國を汚辱するといつて立ちどころに私刑に處せられる。

この外に、一ト月斷食の月九月がある。斷食の月は俗に「見月封齊」の苦行を營む月で、各敎徒は三十日間一切の慾望や快樂を禁じ、たゞ一意神を念じて嚴しい勤行を續けるが普通の斷食と異り「鷄鳴而食、星燦而開」といつてゐるやうに午前二時と午後八時との二回に粥などを啜る。一日の中にも五回の禮拜と沐浴とがあり、これまた回回敎に缺くべからざる勤行の一つである。禮拜はほゞ午前六時、午後二時、同五時、同七時、同九時の五回でその方式は敎徒の一人が、先づ禮拜所前に立つて禮拜開始の呼出しを大聲で唱へると、それに連れて敎徒達が續々と禮拜所に集合してくる。そして一同は橫隊に並び直立したまゝ兩手を擧げ掌を開いて前方へ向け、兩親指を耳朶の後に當てアラーの神に對する彼等のいはゆる擧手の禮を行ひ、次いで兩手をおろして臍のあたりで左手を上に柔かく組合せ「アルラーフ、アイコバル」と祈禱の名號を唱へる。それから一同端座して前列眞正面に端座する敎長（アホン）に倣ひ、念經を唱和しながら三拜九拜の回々敎徒特有の禮拜がはじまる。禮拜は開始から終了まで約二十分間位の短時間で、別に佛敎や基督敎などのやうに說敎がある譯ではない。また神殿には御神體らしい偶像など一つも懸つてゐない。彼等はアラーと呼ぶ唯一無上の神を對照としてゐるからである。敎長は敎徒間に於ては絕對の權威を有するが、佛敎に於ける住職のやうに世襲とか家柄とか稱するものに依つて決まるのでなく、三年に一回づゝ行はれる敎徒間の敎長選擧によつて決定する。隨つて敎徒間に德望ある人格手腕共に優れた人物でなければ、その任にあらずといふ事になる。

敎徒間の挨拶は必ず右または左の手を胸に當て「アスラム・アライコム」お機嫌ようまたは吾等の神のためにといふ意味の言葉を交しながら敬虔の意を表する。別れの時もさうである。沐浴は禮拜前または御不淨後に行ひ、大

淨と小淨との二つに分かれ、全身沐浴が大淨、局部洗滌が小淨となり、小淨は耳眼口手足指その他の局部などを丹念に洗ふ。共に心身の淨化潔齋が目的で大淨、小淨何れに限らず終始經典の文句を默唱しながら行ふ事になつてゐる。普通人から觀れば禮拜といひ沐浴といひ、このめまぐるしい社會に於ては煩瑣に堪へぬやうに思はれるが、彼等は嬉々として神の思召しに叶ふようつとめてゐる。勤人など日中に、この勤行の出來ないものは、歸宅後更に補淨する事になつてゐる。

沐浴は斯くの如く回々教徒獨自の勤行であるから、各回々教寺院では何れも日本の錢湯より遙かに廣大な沐浴場を備へてゐる。然し沐浴場といつても、日本のやうに常に浴槽に滿々たる湯を湛へてをるのではない。夏は清水を多は溫湯を各自バケツ釜類に備へ、一種の行水場に使用するのである。大淨にはコンクリートまたは石製の幅三四尺長さ二三間の長方形の浴槽類似のものがあり、その中に湯水を運んで來ては各自全身を沐浴するやうになつてゐる。小淨は電話室まがひの小部屋が十數連なり、各自その內部に於て局部の洗滌を果し、特に陰部用ものが作られてゐる。清眞女寺もまた同樣であるが、この嚴しい勤行があるため回々教徒の男女には花柳病がすくない。

また回々教徒は右手を神聖として御不淨などは盡く左手を使用する。男女間の戒律もまた實に嚴重で他宗のそれのやうに善男善女打連れて參拜するなどといふ風景は絶對に見受けられない。回々教は一夫多妻主義であるが、

それは經濟的方面からきてゐるやうに考へられる。

「自ら養ひ得るより多くの女を娶ること勿れ。二人三人四人を以て足らしめよ。これを平等公平に扱ひ得ざらんときは一妻を娶るべし」

コーランの文句にも在るやうに、もとより物質的餘裕あるものは四人迄は差支へない事になつてゐるが、最後の一章に翫味すべき多大の暗示が殘されてあるやうに思ふ。また女は異教徒との結婚を禁止されてゐる。回々教では從來女は門外不出のものとされ、他の男には絶對に顔を見せないやうに努め、已む無く外出の場合などは覆面や被衣を着けたものであるが、この風習は昨今大部分改善され僅かにアラビヤやアフガニスタン地方に殘つてゐるだけである。然し女の街頭進出はまだまだ歡迎されない。といつてそれは男尊女卑の結果から生じたものではない。

「眞の信仰あるものよ。罪なき女を弊履の如く捨て、僅かなる物品を與へて去らしむる事は絶對に許さゞる事なり。正に宜しくこれを扶養すべし」

「妻は夫の衣にして、夫は妻の衣なり」

とコーランの中にも記されてある程で「淨土は母の脚下に在り」といふマホメツトの言にも母性禮讚の態度や女に對する心構へなどが窺はれる。回々教國として有名なイラン地方ではクルスム、ナーニと題する回々庭訓女大學さへ傳はり婦德の涵養に力がそそがれてゐる。

回々教では勤行が嚴であるやうに、戒律に於てもまた實に嚴格である。神恩の忘却、不信、殺生、邪淫、僞善、貪婪、魔法などは、何等他宗の戒律と變らないが、食物に於て豚、蝦、蟹、鰻類の食用を嚴禁してゐる事は、頗る注目に値する。豚は不淨の動物であるからといつて、特に嫌惡し口にするだに汚らはしいとされてゐる。彼等を歡待する意味で、迂濶に豚カツなどを出さうものならそれこそ大變な事になる。だから羊と鷄が賞味されるが、それも回々教徒の手に依つて、呪文を唱へながら屠殺したものでなければ食つてはいけない事になつてゐる。酒、阿片、煙草類も御法度である。

回々教には回々教の法制がある。コーランに基いたもので相續法、婚姻法などがそれである。相續上の權利は男女頗る不平等で男は常に女に二倍する相續權を有し、結婚は父その他尊族の意志が絶對的權利を持ち戀愛結婚や自由結婚などは斷じて許されない。また回々教民族が經濟的にあまり惠まれてゐないのは回々教の戒律勤行があまり煩瑣嚴密なため生活が一方に偏しすぎた事と從來營利事業を輕んじすぎた結果とに基く。

今日でもなほ金利生活はもとより銀行利子を受取る事さへ好まないものがある。つまり回々教徒はあまりにも殉教的にすぎるのである。

北支の農村 6

みづの・かほる

◇ 水災と農民

筆者は九月の中旬、飛行機で大連へ向ふ途中、京津北部一帶の水災地域を空から眺めて、嘗ては親しく調査したそれらの農村に思ひを巡らすのであつた。

涯しなく續く水、その水の中に小島のやうに浮ぶ部落、家の屋根と樹木が水上にあるばかりで、たゞこれ縹渺たる水、作物は低きは水に沒し、高きは倒伏して、今は一株の茎つ葉も、一握りの穀實も望めない無の世界と化してしまつた。

のつぺらな平野の眞つ只中、避難すべき高臺も無いことだから、農民はそのまゝ部落に頑張つてゐるのだが、いつ退くとも知れぬ水の中によくも落ちつき拂つたものである。部落の周圍などには、だれもうろ〳〵してゐるものはない。以前、水災地のものから聞いた話であるが、水が出た以上あわてゝは腹が減るだけ、それよりも三度の飯も一度にして、エネルギーの消耗を可及的に節約するために、ごろ寢して水の退くのを待つてゐるのだといふ。常に水災に鍛へられてゐる北支の農民は、流石に周到なものだと思ふ。もう浸水して、一ケ月以上にもなるのだが、だれも救つてくれるものがあるではなく、又それをあてにするのでもなく、じつと辛抱するあたり、日本人の短氣者にはこんな藝當は出來ない。食物にも困つてゐるだらう。燃料にも困つてゐるだらう。第一あの濁水の中に、飲料水はどうしてゐるのであらう。だがとにかく何十萬、何百萬といふ人間が、水の中に生きてゐることは事實だ。

ある地方は、もう水がすつかり退いてしまつてゐる。そしてそこには、もう播きつけが始つてゐるのだ。秋播き小麥である。それにつけても筆者の驚きは、平常でも境界の定かでない農耕地が、泥土の沈澱によつて、一面一色の野つ原になつてしまつてゐるのに、次々と耕されて、元と寸分違はず區切られて行くことである。

これに就て、あとで農民から聞くところによると、自分の畑の區劃は萬一の水災の場合を覺悟して、常に頭の中に方角を入れて置く。又隣の土地とは肥料の相違から、土を掘つて土の色や味などで、見分けをつけることが出來るのだといふ。水災に鍛へられてゐる農民は、不斷から心がまへが違ふ。

それから又、部落の周圍をよく見ると、大抵の部落では高粱稈の垣で迷路をつくつたり、四角な網などで、盛んに魚採りをやつてゐる。昨日の畑は今日の彼等の漁場である。然し彼等の魚採りは道樂ではない。水災に失つた穀作の補充の一助である。蓋しこの雜魚の榮養が、少くとも水災地の農民を息づかせてゐるに違ひない。彼等は天の災害に抗せずとも柔順に、水害に處することかくもさかしく妙を得て居るのである。

閑話休題　北支の災害は、その範圍の廣大な點に於ては、先づ旱魃の被害をあげなくてはならぬが、その被害の程度から言へば水災は誠に悲慘極まるものである。

今次の天津市街の浸水にしろ、鐵道の洪水の被害にしろ、吾々日本人の始めて體驗するもので、今さら驚天動地的な大陸の水の暴威は啞然たらざるを得ない。今次の水災は、北支の建設途上にある吾々にとつてはたとへそれが

大きな躓きであつたにせよ、一面また尊き試煉であつたと言へよう。ことに吾々が北支の水の被害の如何に深刻なものであるかをさとり、樂土北支の建設は、治水問題を度外視してはあり得ないといふ認識を銘記したことは、今からでも遲くない、なんと言つても大きな收穫であつたと言へよう。

今次の北支の水災は、何十年振りのものだといふ位大規模なもので、その最も甚しかつた河北省に於ては、浸水面積が全省の六分の一、罹災人口が三百萬、作物の被害だけでも數億圓に達すると云ふことである。

河北省は單に糧穀作物だけから考へても、平年に於てさへ自給が出來ないのに、本年は旱害と水害によつて、平年の五、六分作位と豫想されてゐる。從つてこれを日本的に考へれば、その不足する食物が手當てされなければ、河北省の人口二千八百萬の內少くとも何百萬といふ人間は、そのうち日干しになる理窟である。まさしく理窟はさうである。ところが待つて下さい。その理窟は必ず裏切られて、水でも退いて來春ともなれば、再び畑の隅々まで耕されて、播きつけられ、手入をされて又來る秋の稔りを迎へる農村を見出して、たれしも一驚されることであらう。どこから種子を仕入れるのか、どこに家畜が洪水を避けてゐたのか、まあ種子や家畜はともかくとして、彼等はどうして喰つて、どうして農耕をつづけて行けるのかが、全く吾々には不可解なのである。

筆者は北支へ來て六年になる。その間これこそ滿足だといふ年柄を見たことがない。旱魃か、洪水か、蟲害か、全く北支は天災のある年が平年であるといふのが當つてゐよう。この六年間に大きいのを數へあげて見ると、昭和十年の大旱魃、一例を示すと、濟南の西の臨淸一帶は山東棉花の中心地で、當時年產百二、三十萬擔、年額五千萬圓と言はれてゐたが、その年は旱魃のために僅かに數萬擔しかとれなかつた。勿論棉花以外の雜穀作も大被害を蒙つたが、翌年はけろりと回復した。

同年の秋には黃河の決潰による大水災を見た。浸水面積一萬四千平方支里罹災民九百六十萬人といふ廣範圍に亙つたが、これも翌年度には略農民も復歸し、耕地も舊態に復したと言はれる。

事變の起つた十二年も、河北省を中心として北支全般が水災に見舞はれた。この被害に於ても農產物が河北省だけで四億圓と推定された。その翌年も多少の水災を見、更に本年は念入りの旱害と水害の、而もその被害程度に於ても未曾有のものであつた。

吾々日本人から考へれば、かう災害が續いては、北支の農村も立つ瀨がない。これでは北支農村もいつかはこの世から消え失せてしまうだらうなどと考へる人があるかもしれない。ところが農村は山河と共に、依然として健在なのだから不思議である。もつとも貧窮に喘いでゐることは事實であるが、彼等はよくこの災害に堪へて、悠久に働きつゞけてゐるのである。而も災害が如何にひどからうと、殆んど政府はこれを救濟しようともしない。又かう每年大規模の災害では、政府も手の出しやうがないのであらう。彼等も亦政府から救濟して貰ふなどと女々しい心を夢にも起さぬ。それは一つには、救濟された經驗をもたないからでもあらう。この點數年前、東北地方の不作で國をあげて救濟に大騷ぎをした日本のそれとは、全く似もつかぬものである。

彼等は天災を天命だと考へてゐる。彼等の生活には、最初から天災が豫算に組み入れられてゐるのである。そこに吾々日本のやうに自然の恩惠に慣れた瑞穗の國の農民と違つた心がまへと、偉大な活力が北支の農民に備つてゐるのである。彼等は災害のために收穫が半分なら彼等は半分だけ喰つて生きて行くのである。そこに彼等の驚くべき消費節約を見るのである。而しそれは、災害の鄕土に生れた彼等の、宿命的な約束である。

筆者は、北支の農民がかうした災害に堪へしのんで、自らこれを克服して行くところに、偉大な强さとたのもしさがあると思ふ。吾々が今後北支の農村開發の指導者たらんためには、先づ以てこの點を三思すべきである。筆者は思ふ、北支の災害は單なる救濟では救濟されない。なまはんかな救濟は徒らに彼等を頼らしめ、倚らしめることを敎へるに過ぎないことと思ふ——もとより特殊な意味をもつ都市近傍の農村や、鐵路愛護村地帶に於けるものは又別であるが——。

吾々が北支農村の開發を企圖するに當つて、災害救濟を日本的な考へだけをもつてしては間違ひである。とまれ、救濟は理窟にあらず、人情の發露なり、救濟大いにやるべしである。たゞ如上の「災害に鍛へられた農民」を認識した上で行はるべきであると思ふ。だが所詮救濟しきれぬ北支の災害は、一日も早く根本的な災害排除方策に思ひを致すことこそ、北支經濟建設への大道である。

可園雜記

加藤新吉

今夜の北京のラヂオは早慶の野球戦が慶應の勝利を以て終を告げたことを報じた。今夜の銀座は慶應ボーイの氾濫、醉つぱらひの喧嘩で賑つてゐるだらうと私はすぐ想像した。が、戰時下の日本では醉つぱらつてのし歩くと忽ち檢束されて臭いところに入れられることになつたさうである。銀座名物が一つだけ減つたと東京から來た客が語つた。思ふに日本名物も一つだけ減つた譯である。ところで、せつかくの名物の滅びるのを惜しむあまりせめて之を支那大陸に保存しようとしてゐる譯でもあるまいが、事變以來、日本流の醉つぱらひと醉つぱらひの喧嘩とが急激に北京の街頭に進出してきた。支那人爲に眼をまるくして居る。

東京から來た客は又、北京に居ること十日にして支那人の醉つぱらひを見ないことを不思議がつて居る。一年居ても二年居ても恐らくは見ないかも知れないと云つたら其客は益々驚いて居る。滿洲及支那に於ける私の生活はざつと二十年になるがまだ數へる程しか酩酊した支那人を見たことがない。而かも見たといふ場合も、それが戸外に於ける場合は、芝居の一齣を口誦みながらふらふらと歩いて行く足どりから、はゝあ先生きこしめして御座るなと判る位のもので、所謂泥醉者、日本流の醉つぱらひは至つて少い。

支那人は飲んでも醉はないのか、醉ふ程に飲まないのか。自信ある答をすることは難しいが、支那人と雖も飲めば醉ふだらう、また醉つぱらふことも勿論あるだらう。李左相は飲むこと長鯨の百川を吸ふが如しと歌はれた。今も豪酒を海量といふ。まことに大袈裟な言葉であるが、支那人に招かれたりすると乾杯に次ぐに乾杯、こんなのを海量といふのだらうと思ふ程に主人はよく飲む、が酩酊の風は見せない。焦遂五斗方に卓然といふが、いかにも卓然たるものである。

酒を飲んで酩酊を成さしむる莫れ花を賞するに愼んで離披に至る勿れといふ句がある。併し現代人のすべてが邵康節の風流を解するものとは思はれないから、彼等必ずしも微醺にして已むものではない。たゞ無禮が酒の故を以て宥さるゝ國と然らざる國との相違である。酩酊しては彼等の面子がないのである。車夫馬丁と雖も車夫馬丁の面子がある。だから車夫馬丁と雖も街頭に醜態をさらさない。だから恥も外聞もない猥意な仲間では士君子と雖もしたゝかに醉つぱらひもするといふ。

ある支那の紳士の集りで酒量の話が出たことがあつたさうな、甲は一斤で醉ふといひ乙は二斤飲んでも醉はぬといふ。丙は酒の香を嗅いだだけで醉ふといひ丁は酒の瓶を見ただけでも參るといふ。結局丁が最も酒に弱いといふことになつたのであるが、其丁氏飲めばいくらでも飲むといふ。そんならどうして酒の瓶を見ただけで參るのかその質問に答ふべく席を起つた丁氏、反身になつて左手を曲げて腰にあてた。思ひ切り人差指を伸ばした右手を前に出して、その手くびに調子をつけて二三度縱に振つて見せた。一同たちまちその意を解して笑ひ轉げたといふ話がある。其意味がお判りになりますか。

丁氏がやつてみせた恰好は支那の酒瓶の恰好である。そしてそのまゝまた支那の女房が亭主に文句を云ひ、亭主をやりこめる時の恰好である。

交民巷の一挿話

中平　亮

（ホールワット未亡人）

世界大戰の末期、ロシヤ革命の波が極東に達したとき、綏芬河から程遠からぬ沿海州の一寒驛グロデコヴォの、而も驛構内列車中で突如として極東ロシヤ臨時政府が組織された。列車内に政府が組織されるなどといふことは、史上恐らく類例のないことと思はれるのであるが、確かに革命の產んだ一畸形兒に相違なかつた。この政府の首腦者は時の東支鐵道長官ホールワット將軍であつて、彼は現職のまゝ臨時政府を組織したのである。

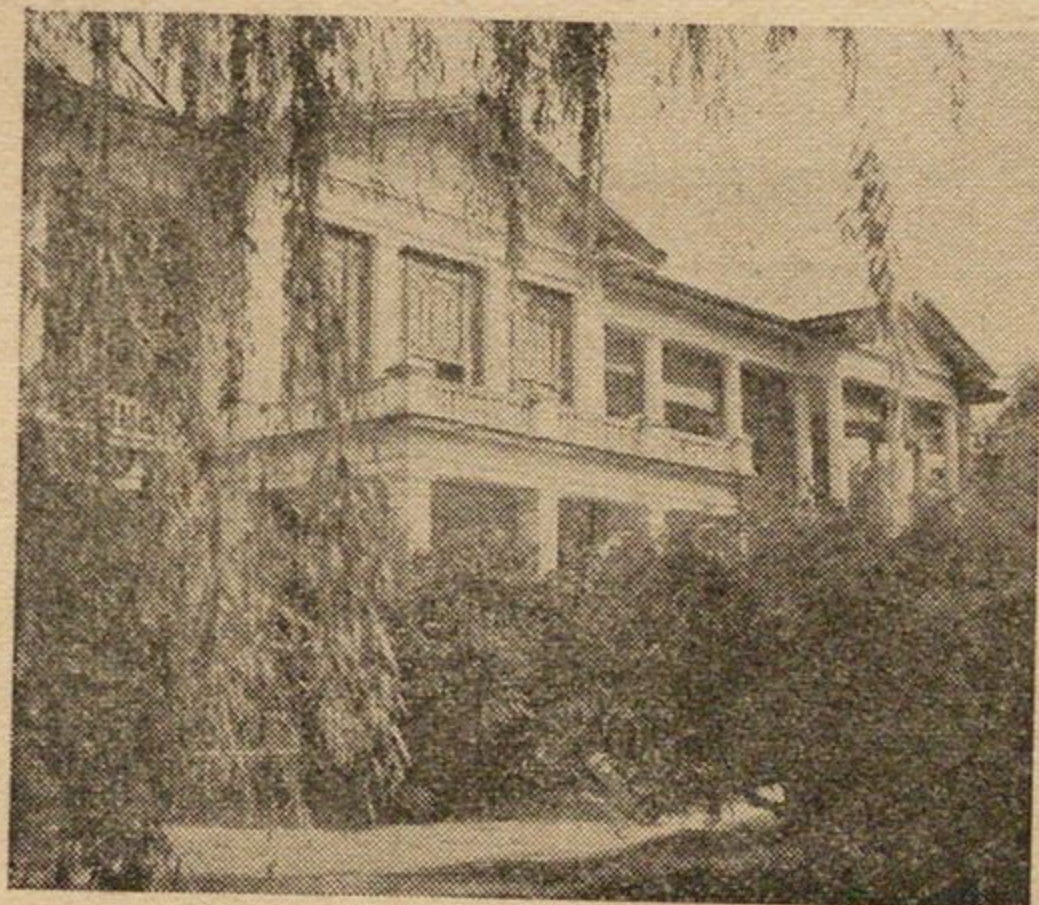
その時ウラジオストークには、既に社會民主黨系のレベデフ政府が別個に存在してゐた。これは、當時我が國と轡を並べてシベリアに軍を進めてゐたアメリカに操られてゐたものと思はれる。この狹い地域で對立した二つの政府は單なる睨み合ひだけではすまず、終にホールワット政府はその列車諸共ウラジオに突進し、そこでも依然列車内の政府としてエゲリシェリド埠頭に頑張ることになつたのである。

一方、西部シベリアでは、オムスク市を本據として、元黑海艦隊司令官コルチャック提督を首腦とする地方政府が組織された。これは內幕のことでもあり、恐らく一般には知られてゐないことゝ思はれるが、この政府の育て親は實はホールワット將軍その人であり彼は極東臨時政府首相として內外政策を掌握し、コルチャック政府には遠く隔つた西部シベリアとボルシェヴィキの跋扈するロシヤ本國に直接境界を接する地域の管理行政を託した。勿論驥てウラルを踰えて本國に進入すべき反革命軍を組織する、この諒解の下にコルチャック提督を拉してオムスクに据ゑたのであつた。

ところで英、米孰れとも合致せず、結局政策は日、佛の對ボルシェヴィキ別個に西部シベリヤに兵を進めたのであるが、思はざりきコルチャック提督は英、佛の傀儡となつてホールワット政府との關係を斷絶した。「見損なつた！」――これは、ホールワット將軍のその後の生涯を通じて月にも、花にも消すことの出來なかつた悲痛な叫びであつて、彼は明け暮れこの言葉を繰り返しながら、數年前他界したのであつた。

コルチャック政府は兎も角も英、佛の支持によつて、一反共勢力とはなつたものゝ、その軍隊は間もなく赤軍の進攻に會つて脆くも潰滅し、聯合諸國もシベリアから兵を撤した。これに伴つて、ホールワット政府も亦他の諸政權同樣解消の已むなきにたち至つた。東支鐵道の後始末に關しては、この會社が露支合辦の露西亞銀行管理下にあつた關係で、會社の資金を全部この銀行に移管し、これに關聯して支那側に對し普通以上の好意的態度を示したため、支那當局はこの好意に應へ、愈々ホールワット將軍の立場が行詰ると、大戰によつて支那政府の管理に歸することになつたところの北京東交民巷墺國府本館（舊オーストリア公使館）を彼に提供した。斯くて彼の一族はやつと安住の場所を得た譯である。

かうした物語は今では、もはや餘りに古い話になつてしまつてはゐるが、租界と共に問題になるべき交民巷の一角に住んでゐる故將軍の未亡人が、我我をして今や世人の記憶から葬り去られんとしてゐる嘗ての反ボルシェヴィキ闘士を思ひ出させるのである。

未亡人の住居（舊オーストリア公使館跡）

彼女は畫家である。彼女の作品は殆どすべて水彩畫であるが、この道にかけては押しも押されもせぬ一家をなすものであり、孰れの作品に就いて見ても非凡な技能が窺はれる。目下北京でその公館の一隅にゐる矢部友衞畫伯の

鑑定によつても、確かに推賞に値するものであり、將に滅びんとするこの部門にあつて、飽くまでも古典的傳統を固執してゐる點が特に高く買はれなければならないとの事であつた。

彼女はまたピアニストとしても充分に認められてゐる。文筆にかけてもアマチュアの域を脱し『愛の勝利』その他の著作が刊行されてゐる。

(未亡人の筆になる故將軍の像)

筆者は、彼女自作の童話詩を聞かされたことがある。ずつと以前、スイスで療養してゐた時、窓越しに雪を頂いた岩山が碧空高く聳え立つてゐる、磨きたてたと云ひたいあのスイス特有の風光を眺め乍ら、太陽の暖かさ、月の冷酷さ、風の暴威に取材して童話を詩で綴つたものであるが、彼女は、さながら物語の主人公になつてゐるかのやうに、眼を輝かせ乍ら節面白く讀み聞かすのであつた。これには一頁毎に自筆の繪が挿入されることになつてゐる。詩の童話、而も詩も繪も、全部自作であるところに特徴があり、それだけ光彩が加はつてゐるわけである。

應接間に掲げられてゐる額の一つに、鬱蒼たる大木の葉蔭に、白髯の故將軍がサモワルを前にして讀書に耽つてゐる畫像がある。これを指し乍ら彼女は言つた。――幾百年の間、風雨の試煉に堪へてきた毅然たるこの古木、人生の荒波を乘り越えて俗事を超越してゐる白髪の翁、この對照に誘はれてこの繪が出來たのです―と。彼女は畫家であり同時に詩人である。

彼女は、確かに六十の坂を越してゐるのであるが、姥櫻の香なほ水々しく何處から見ても四十をやつと越したばかりとしか見受けられない若々しさである。完全に藝術に浸つて屈托のないその生活、日々胸を衝いて迸る藝術的感激がこの若さを生んだものであらう。

畫家であり、音樂家、作家を兼ね、而もその孰れにしても兎も角一家をなしてゐる多藝な女性といふものは、そうざらには發見出來るものではなさそうであるが、天分のしからしむるところであるにせよ、彼女をこゝに導いたのは、家庭的環境も亦大いに與つて力あることと思はれる。父アリベルト・ベヌアは當代に於ける有數な畫家であつた。彼女はやつと物心つきかけた時から、父の製作を見習ひつゝ、何時の間にか繪に自信を得たのであつた。母マリアも亦ピアニストとして令名があつた。彼女のピアノ彈奏は、この母の手鹽にかけての遺産に外ならぬのである。總じて云へば、藝術に對する兩親の深い理解が、彼女の藝術を產み、且つ育てたのである。また血統から云つても、明らかにさうした血筋は承けてゐる。叔父アレクサンドル・ベヌアはこれまた著名な藝術評論家の一人であり、その息子ニコライは目下イタリーに住み、作曲家として相當認められてゐる。斯くて、一族これに婚姻關係の緣者を加へ、この中から多少なり著名な藝術家を探すなら十指を屈してなほ餘りがあり、これら家族緣者は尨大な藝術家群をなしてゐる。

彼女は筆者に言つた。

「この世の幸不幸といふものは、畢竟當人の氣の持ち方によつて決るものであつて、絕對的なものではないのです。この點に就ては妾達は父からくれぐれも敎へられてゐます」

アーリア種族にあつては、ロシヤ人にしか求められない東洋的人生觀の一片である。

支那芝居雜觀 7

石原巖徹

◇動作の美

舞臺上の歩き方は役柄に依つて異るが、すべて美觀といふことを第一義としてゐるので、非常にむづかしい規則に從つてゐる。原則として平地を歩く場合には膝を曲げないで、脚を眞直ぐにして歩く。花臉役は大股に肩をいからし老生役は儒雅を宗として瀟洒たる歩き方をする。女形は嬝娜といふ形容詞の如く女性美を强調表現した歩き方をする。いづれもこれには囃子方の奏する音樂の調子に合はせることを必要とする。

舞臺裝置の全然無い空間を以て、家があつたり、門があつたりすることにしてゐるので、門を出たり入つたりす

が、女役の場合は、褄を細かくしてかんぬきを外し、戸を兩手で開いて、身體を前へかゞめて門を跨ぐ、內へ入る時にはその逆をやる。これも一種の美觀中心主義から來た演り方であつて、その場合の身體のこなしの微妙な所に俳優の藝の見せどころがあるわけである。若し舞臺に實物の門や戸があつたとしたら、その美觀は半減するであらう。そこで女形のこの所作(門の出入)を「眞似でする約束」と見ることは皮相の觀である。むしろ「門の出入の姿に借りた舞法」と見ることが深切である。もともと支那劇の眞髓は筋を運ぶことにあるのではなく——尤もそれは支那劇だけに限らないことではあるが——或る筋に借りて藝術を表現するのが目的である。この點から見ても大道具を用ひない理由が肯かれると思ふ。

手の扱ひかたにも役柄に依つて細かい法則がある。たゞ手を前へ伸ばす場合でも、花臉役は豪宕或は粗暴の性格を現はすために五指を皆離して擴げる。老生役は、親指だけを開いて他の四指は密着せしめる。これは敎養あるつゝましやかさを現はす。小生役は四

下の節の處に附ける。これは婦女子の羞恥の態を現はすものである。又女形が手で何かをゆびさす場合は、親指と中指とで輪を作り、食指だけを上へ起して、藥指と小指は中指の中間の邊へ曲げる。この形は極めて女らしい美しさを示現するもので、支那劇が如何に細かい工夫を經たものであるかを語つてゐる。

舞臺で睡眠する場合は横臥しないことが原則になつてゐる。卓に右肱をついて頭をその手で抱えて倚りかゝるか、或は椅子へ片腕をかけて、それへもたれるかして、寢床に入つて眠ることを現はす。これも美觀第一主義から來たものである。花旦(いろおやま形)役などで帳中に横臥する場合を演ずることもあるが、それは新手法で例外である。

飯を喰つたり、宴會をしたりする場面は、これも美觀第一主義に依て、非寫實的に演る。飯の場合は碗と箸だけでホンの眞似事で濟ませるし、宴會の場合は、酒杯を持つて飮む眞似だけをする。女形で特にしなやかさを現はすために蹻工と云つて、足に短い竹馬樣のものをくゝりつけ、それに小さな靴

る場合には、戸を開けたり、跨いだり
する眞似をする。これが男役の場合は
簡單に戸を押して跨ぐ眞似だけである

指を密着せしめ、親指は手の腹の方へ
曲げ、老生よりも更につゝましいこと
を現はす。女形の場合は親指を食指の

を穿くことがあるが、これは非常な熟
練を要するので近頃の俳優は餘りやら
なくなつた。

長城・餛飩

槇　泰路

十一月には雪が降る
さぞや長城は冷たかろ
鴉が路を知るならば
樣に布子を屆けたや

こんな唄を思ひ出して、冬の長城も惡くないと思ふ。私が初めて萬里の長城をみたのは數年前、正月休みを利用して山海關迄旅行した時である。

まだ密輸の盛な時分だつたから驛頭の夜は冷たい眼が光つてゐるやうで氣持が惡かつた。

しかし街中の雰圍氣は豐かな感じで人情もよかつた。小さな寄席に這入つてスケツチしてゐると皆寄つて來てお茶を出したり、繪をかいてに何するか、何處から來たかと云ふ。

私は支那語が怪しいのでもどかしがつてゐたら、少し日本語の分る巡警が出て來て、昔滿鐵に勤めたことがあると云つて得意になつた。

好朋友（ハオポンユウ）！　私等は近所の居酒屋に行つて玫瑰（メイクイ）の酒を飲んだのである。

彼は姑娘が長城に行つて泣いた話をした。片言まぢりに話すのだから面倒臭いけれどもしまひにはうれしくなつてしまうた。

後になつてそれは孟姜女の話だらうと友達に敎はつたので、私はなるほどと思つて暢氣なのに呆れた。

お正月には梅の花
他家（よそ）ぢや紅燈（とあし）があかあかと
みんな團欒（まどゐ）の仲の良さ
樣はそ樣は城造り

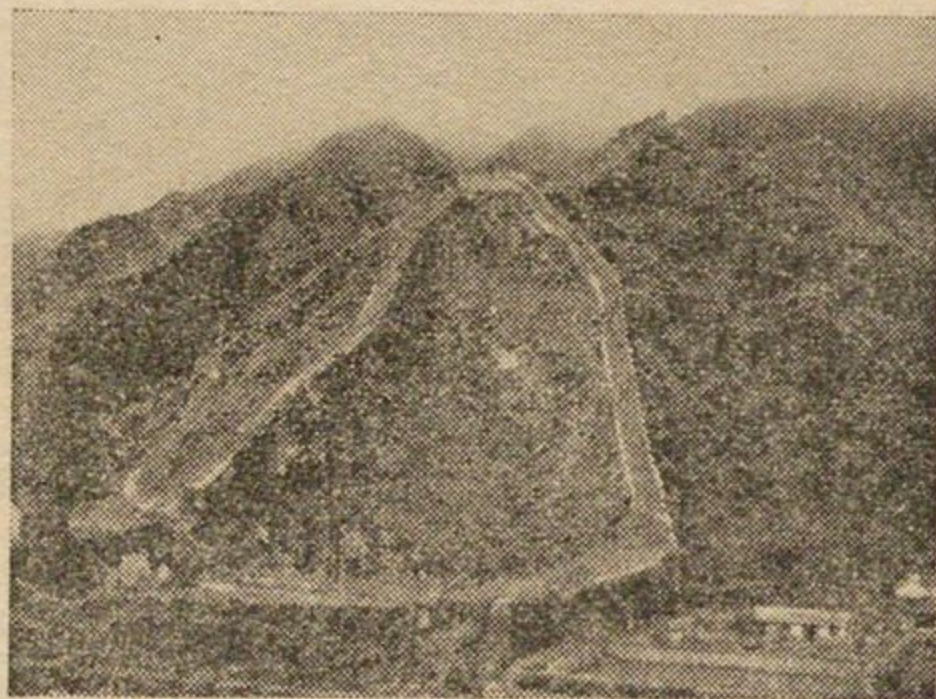
支那芝居に「萬里尋夫」と云ふのがあつて、その途中關所で孟姜女が唄ふのである。

秦の始皇はゑらすぎて恨まれたかも知れぬ。しかし萬里の長城を泣き崩した彼女も傑い。主人に泣きついて狐の襟卷を買つて貰ふ奥さんと違ふのである。しかし城造りが嫌で逃げ廻つた夫の范紀良は日本だつたらやはり打首になるだらう。

秦の始皇は孟姜女を口說いたけれども駄目だつたさうである。

私は天下第一關の城門に登つて長城をみた。何と考へても人間が造つたやうな氣はせぬ。重疊たる山腹に大蛇が這廻つてゐるのだ。空はカツトグラスみたいにキラリと澄んで遠い。

北京に來てから京包線に乘つて八達嶺を眺めて通つた。もう一度朔風の吹きまくる長城に登つてみたいと思ふ。

八達嶺の長城

さうして大きな繪を描いてみたいと思ふ。秦の始皇みたいな繪を。

☆　　☆

冬の北京の御馳走は何か、それはホントンである。餛飩と書いてホントンと讀む、日本のワンタンのことさ。

しかしホントンの方が美味さうである。秋口になると街辻のあちこちに餛飩賣が出るけれども多がよい。多の寒い晩に白い湯氣を立てるのがよい。

支那芝居が晩くなつて夜更けの暗い街角にカンテラをみつけるのは樂しみだ。お酒をのんでのどが乾いた時食べて御覽なさい。ラフカデオ・ハアンの小說みたいに氣持がふわふわする。

十錢玉一つ出して來一碗と云ふ、外套の襟を立てて再來一碗と云ふ。

北京の餛飩は甚だ精、皮薄きこと紙の如く、餡のこまかさ泥の如し（ひき肉の餡）小にして巧なる初生の菱の實に似たり、それを鷄のスープにゆでて多菜、紫菜、蝦米（乾した小蝦）もやし、香菜、韮など少し宛加へて食べる。

香味淡遠、入口卽化、不辯表裏とはうまいことを云うたものだ。しかしスープは鷄だけではない、豚の脚や牛の肋骨もある。それを鍋を半分に仕切つてぐつぐつ煮るのである。

初は氣持が惡いけれども馴れたら何でもない。ホントンにも色々あるのだ。飯館のより辻賣のが美味いのは不思議である。やはり專門家の方が上手なのだらう。

王府井の名物餛飩屋のおやぢは毎晩きまつた所に出る。特許があるのに違ひない。私は顏を覺えられた。

日本で作られた大陸映畫に就て

北川冬彦

この題名で執筆をもとめられたのであるが、大陸映畫とは、支那大陸を背景としそこに取材せる映畫といふ意味であらうと思ふ。さういふ大陸映畫は、アメリカ、フランス、ソヴエート等に於ても製作されたことがある、それで、「日本で」とことはり書きが附いてゐるのだらうと思ふ。

「日本で」といふよりも「日本が」作つた大陸映畫の中で、何が一等古いのだらうか。恐らく、それは日露戰爭當時作られたものだらう。私は、ほんの幼少のころ、瓦房店のバラックの小屋掛けで、陣地を占據する突撃隊の寫眞がうつされてゐたのを覗きみした記憶がある。何でも高地に向つて日本の兵隊が突撃するのだが、バタバタ斃れてしまふ。斃れても、いくら斃れても、突撃する。今、考へて見ると、これは

しい。また、よく使はれる當時の寫眞として、二〇三高地の砲撃、水師營の會見、旅順入城といふのがある。

その後も、支那に於て、事變があるごとに、この二種の映畫が作られるのがならはしとなつてゐる。即ち、「劇映畫」と「實寫記錄映畫」なのである。しかし、いづれも、お座なりのもので、事變が終ると、ともにぱつたり影をひそめてしまふ。

今では、東和商事で配給してゐたりするので一般にも知られてゐるが、滿鐵映畫といふのがある。これは、滿鐵の諸事業、並びに滿洲の風物風俗の紹介を目的としてゐる實寫記錄映畫である。滿鐵映畫は、主として芥川光藏の滿洲並びに映畫藝術への並々ならぬ熱情によつてはぐくまれた。

初期の「鴨綠江」その他には、字幕に感傷的な美辭がつらねられ稚拙なものであつたが、それが次第に洗錬されて行つた。「草原バルガ」「祕境熱河」など、この期の代表的作品であらう。

先にも一寸書いたやうに、支那大陸を背景としそこに取材する映畫といふものは、事變とともに、粗製濫造され、事變の終了とともに影をひそめてしまふのであるが、こんどの支那事變の場

映畫が簇生したけれど、事變の性質の重大さは、國民の大陸への眼をめざまさしめ、大陸映畫も、本腰に製作されるやうになつた。

實寫記錄映畫として、東寶第二製作部では、「上海」「南京」「北京」を作つた。このうち、「上海」は、單なる記錄映畫に止らず、日本國民としての感情のこもつた藝術映畫として、人の心を搏つた。「上海」に比べると、「南京」はニュース映畫的興味にうはついてゐたうらみがある。「北京」では、北京に於ける風物風俗の蒐集に、異色が見出された。

この時期に、芥川光藏は、「鐵槌抗日」を撮つてゐる。この作は、作全體としては優れたものではないが、いつまでも記憶に殘る部分がある。それは、八達嶺の砲撃を撮つてゐるところである。我軍の大砲が列をなしてゐる。それが順次に發砲する。發砲すると同時に、彈丸が敵陣地にさく裂する。その樣が、特殊な望遠レンズで撮られてゐる。望遠にてアップが撮られてゐるのである。それも日本映畫に於ては他に類例がない事だが、こゝの撮影に於ての異色は、芥川光藏の根の强さである。砲の發射をいつまでも待つてゐたことが、畫面にうかゞはれるのである。こ

見られた。萬里長城と、その附近の山嶽を撮つてゐるところである。

芥川光藏の初期の作品に、字幕として現はれた感傷の、これは昇華されたものだと私は思ふ。しかし、もう一段の進步は、この根氣のよさが、根氣のよさとして見えない境地にすゝむことであらう。根氣のよさが根氣のよさとして見えると云ふのは、或場合くどすぎる印象を與へかねないからである。

芥川作品として、一つの轉換期に當る作は、「滿鐵三十年史」であらう。この作は、內容から云へばいさゝか斷片的に過ぎたが、形式的には、芥川光藏は一飛躍を示してゐると云ふことが出來る。滿鐵映畫はそれまでサイレント的であつたが、この作ではじめてトーキー作となつたからである。トーキー作となつたと云つても、多分にサイレント的なるものゝ殘滓はある。サイレントとして撮つたものゝ再編輯が主要部分を成してゐるのであるから、それも無理はない。しかし、この作で形式的に重要な部分は、松岡總裁が滿鐵三十年の歷史を解說する、それの撮り方である。解說する松岡總裁のアップが、フンダンに撮られてゐる、そして解說するその澁い聲が畫面を蔽ふのであつ

のいゝ愛情表現のあらはれの一つなのだ。

大陸實寫映畫の製作を試みてゐるのに、同盟通信の映畫部がある。まとまつた作に、「曙光」「新大陸」がある。いづれも、内閣情報部監修のもので、日本の大陸政策の反映を支那大陸に見ようとする立場に立つてゐる。「曙光」は支那事變直後の作で對象の把握や編輯に亂れが見られたが、「新大陸」ではそれがよく整理されてゐる。いづれも、田中喜次の責任製作である。

大陸映畫として、實寫記錄映畫の外に、劇映畫も、製作者の食指を動かすのを常としたが、こんどの支那事變では、大陸劇映畫はそれまでのやうな拵へもの、粗雜なものでは、製作者自らも、又觀客も滿足せず、ことに監督者の良心は、大陸劇映畫の製作に際し、現地ロケを主眼とせる記錄的劇映畫の製作をもくろみはじめた。

東寶の熊谷久虎の「上海陸戰隊」がその最初の成功作である。これは、海軍省の積極的な後援の下に製作されたもので、必然、戰史に忠實であらねばならなかつた。熊谷久虎は、敍事詩として感銘深い作にこれを作り上げた。熊谷久虎はニュース映畫的迫力を狙つてゐたが、結局は、熊谷久虎の劇的精神が強く、その感銘がこの作の力となつてゐると云つてよいのだらう。

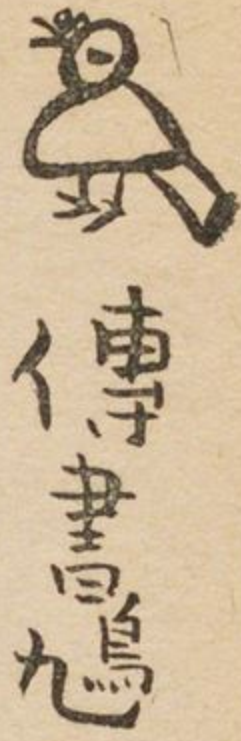
田坂具隆の「土と兵隊」は、記錄的劇映畫として、記錄性の非常に勝つた作である。記錄性の點では、「上海陸戰隊」よりも強い。その代り、劇的精神は稀薄である。この「劇」と「記錄」を如何に結びつけ、それぞれを生かすかと云ふことは、今後の日本映畫にとつてきはめて重要事に違ひない。尤も「記錄」と「劇」とを、區別して考へるのが、そもそも間違つてゐるのであるが、しかし、日本映畫の發展段階が、これを區別せしめるやうな風になつてゐるので、一先づ、この二つを區別してかゝらねばならぬのである。この區別を必要としないやうな、この二つのものを打つて一丸とする偉大な映畫作家が現はれるまでは、この「記錄」と「劇」の問題は解消しないだらう。

土と兵隊の一場面

それなら、どんな場合、劇と記錄が打つて一丸とされるか。私の考へでは現在のやうに、劇的場面の多くを、内地へかへつてからのセットで行ふやうでは、いつまでたつても、記錄的部分と劇的部分のチグハグからは拔けられないだらうと思ふ。

それにも拘らず、「上海陸戰隊」や「土と兵隊」が成功したのは、これら二作に於ける人間の生活といふものは、紀行的なものであるからである。もしもこれが大陸に住み着いた人々の生活を描くとなれば、どうしても大陸に建てられた撮影所に於て製作される必要がある。

滿映の作品は、「寃魂復仇」と文化映畫「森林滿洲」「滿洲空の旅」「氷上漁業」の三本を見たきりである。滿映々畫が内地から行つたばかりの監督によつて作られてゐる限り、傑作は出ないだらう。滿洲國生れの日本人或は滿人の中にすぐれた素質者の現はれる遠い將來に期待するより外はない。

傳書鳩

開拓民指導の為 半島農民北支へ

展け行く興亞の黎明を目ざし開拓民指導農家の使命を擔つて半島農民百五十戸が去る十月下旬を期して北支へ進出した。半島農民の北支入植は今回が初めてゞ北京近郊の豐臺で模範農村指導農家として入植したのである。入植者は、忠北、忠南、全北、全南、慶北、慶南、平北等の各道からのもので、その主目的は不正業から轉向した半島人の指導者として養成しようとするものだ。移住者はそれぞ〳〵の道農民訓練所終了生または農業實習學校卒業生、模範農家中特に堅實優秀なものと限定し、更に一家族中男二人以上の勞働力を有するもの家族中に前科なきこと、および各員思想穩健、性善良であること等が條件である。

正太線の準軌改裝愈〻成る

河北省の石家莊と山西の太原を結ぶ正太線（二四二キロ）は從來一米の狹軌であつたため京漢線と直接に接續することが出送上不便おびたゞしく、産業開發にも軍事作戰にも頗る遺憾とされてゐた。華北交通會社では本年五月から軍の協力のもとに着々準備を進め、その間未曾有の水害に見舞はれながら能く計畫どほり全準備をとゝのへ、九月二十七日を期して本工事に着手、僅々四日間をもつて一氣に擴大工事を完成した。かくて正太線の標準軌道（一米四三五）化成り、これによつて北京、太原間は石家莊で貨物の積換不要となり、北西への物資移入並びに山西からの石炭その他の物資移出量は一躍五割方增加されるものと期待され、旅客輸送に於ては約二割の增加が可能となつた。蓋し産業開發並びに軍事上に裨益するところ頗る大と云ふべく、なほ、この改軌完了を機會に、華北交通會社では正太幹線を石太幹線（石家莊站―太原北站間）と改稱した。

天津の水害に鳩君活躍

今夏北支未曾有の水害のなかにも天津のそれは禍害が最も甚しかつた。少しく舊聞に屬するが、その水害當時の話。――天津に浸水間もなく天津鐵路局では水災救護委員會を開設した。ところが日本租界は、急激な浸水のため電話による連絡が一切不明となつてしまつた。折角日本租界に連絡本部まで設定したものゝ至急通信の道がたたない。そこで思ひ當つたのが天津鳩通信所で日頃各方面と連絡に使用してゐる傳書鳩君。直に連絡本部に臨時鳩通信所を設け鳩通信員を派して連絡本部と鐵路局間を專ら鳩をもつて通信にあたつた。一方罹災社員家族の救助引揚げ作業に編成せられた船運班は數組に分れ、各船毎に傳書鳩を積み込み、救助引揚げ作業先より委員會にそれぞれ狀況を報告した。急激な天災に科學の力の及ばなかつたところを、可憐な傳書鳩が目覺しく活躍、これを目のあたり見た一般民衆は無心の鳩に心からの感謝をさゝげた。

ダイヤの改正と大陸鐵道の飛躍

ダイヤは鐵道の社會的使命を完全に遂行するため四圍の情勢に適合するやう作成せらる可きもの。即ち、國家・社會公衆の要望に副ふことゝ、内因的に鐵道の實態に即應することの二つの要件に適合せねばならぬ。若しこれが何れか一方に偏すれば、或は國家的・社會的要望に副へなくなり、或は實行不可能な半身不隨となる。この二要件を如何に調整滿足させるかにダイヤ設定の重要性

更に進んで北支・蒙疆に於ける鐵道の特異性に注目せねばならぬ。先づ一般國家・社會の使命から見ると、この大陸鐵道は軍事的重要使命を有すること、即ち作戰鐵道として又兵站鐵道としての役割を有すること、更に日滿支三國協同の東亞計畫經濟確立のために東亞新體制の一環として生産力擴充物資の輸送に關し國家的使命を有してゐるのである。

鐵道自體について言へば、北支・蒙疆の鐵道は元來支那鐵道としての發展過程を經て來たもので、その設備施設の不備は別として、萬事中南支と不可分で、内亂對立などで多少の變遷はあつたが從來中南支依存の政治・經濟社會であつた。從つて鐵道も亦必然的に中南支依存で、事變後の新秩序に適應すべく體制づけられて居ない。これは鐵道網の配置にも又諸般の設備にも言ひ得ることで、日滿支交通ルートとして適合せぬ所が多々ある。この缺點は從來總て、專ら輸送從事員の人的努力によつて補はれ、重要な軍事輸送その他大過なく運營されて來たもので、まさに驚異とすべきことである。

北支・蒙疆の全交通の運營に任ずる華北交通會社は、かやうな新事態の要

列車運轉時刻を改正し、爾來假營業區間の延長によつて若干變更を加へ今日に及んだが、治安と産業開發の進捗に伴ひ、早急に輸送力增加を計る必要を生じた。偶〻鮮滿兩鐵道が十一月一日を期し列車時刻改正するに呼應して、同日全線の運轉時刻を改正した。このダイヤ改正によるスピード・アップ化によつて現在の貨物列車粁約三萬六千七百粁は約五萬一千粁に躍進、現在の貨物・旅客列車粁たる五萬八千餘列車粁は一躍計七萬六千餘列車粁の延長粁程を示すことゝなり、從つて物資の交流圓滑によつて北支・蒙疆經濟界は全面的革新を見る筈である。改正中內地一般旅客に最も關係の深い鮮滿支直通の釜山北京間列車について言へば、從來の一往復を二往復とした。これがため關釜連絡船は晝夜航便とも接續出來ることゝなつて、內地、北支相互の激增しつゝある來往旅客の便宜は多大といふべきである。この二往復の列車はそれぞれその名も東亞新秩序建設にふさはしく、「大陸」「興亞」と名附けられた。

治安回復區域に保甲制度を實施

山東省では、さきに臨時政府から公布された保甲制度の運用實施につき、同省の特殊事情と睨み合せて研究の結果、さき頃いよいよ實行に到達し、そこで先づ、省内治安回復地域に實施することゝなつた。その實行案といふのは、山東省には從來「郷」「鎭」單位の連座法による莊會隣閭制度があつて實績の見るべきものがあつたが、今回保甲制度實施に當り農村の自治自衛相互扶助作用をさらに強化するために、この保甲制度に從來の隣閭制度を加味調整したものである。將來は農事合作社指導にも本制度を運用し政經一致の結合體たらしめようといふ方針で、おそくも本年内には實現が期待されてゐる。この保甲制度は、洪水や戰禍のため生活の道を絶たれた夥しい難民に對する應急救濟策と平行して、敵が土匪や敗殘兵を煽動して後方攪亂を策し廣汎な農民を獲得しつゝ地方的抗日政權を組織せんとするのに對し、農民自らこれを自衛せしめる建前から北支臨時政府が採用實施したもので、漸次その效果が高められつゝある。

支那に於ける保甲のおこりは、北宋神宗時代（十一世紀初頭）の王安石によつて始められたものである。王安石は、宋の國力を伸張せんとして種々の富國强兵策を講じたが、そのうちの一つとしてこの一種の民兵組織をとらしめた。それによれば十家を一單位として之を保と名づけ、一人の保長を置き、五十家を大保とし、之に大保長を置き、更に五百家を都保として、正都保、副都保を置いた。かく組織せられた壯丁は之を保丁と稱し、各保丁は各各自費を以て弓箭を貯へ農閑期を利用して武技を講習せしめ、一朝有事の際に備へしめるとともに、平時は地方自治的警察のことを行はしめたのである。

支那語女教師のつぶやいた皮肉

北京滯在半ヶ年の立野信之氏は支那語勉强を思ひ立ち、その日も假住ひの一室で女子高等實業學校卒業の某女について初等支那語の勉强中であつた。そこへ京包線の旅から歸つて來た尾崎士郎氏が、電話で晝食の案内を頼んで來た。そこで「東京の有名な作家が來て晝食の案内を頼まれた、だからこれで休みにしてくれ」と申出でた。女教師は早速承知したが、再見（左樣なら）を云ふ前に、笑ひながらつぶやいた。「日本の執筆家は、北京に來て先づ王府井を歩いて支那料理を喰ひ、次ぎに前門外で（姑娘）に戯れ、第三に萬壽山に遊び、第四に紫禁城を見物すると執筆家は間もなく東京に歸つて支那通となり、寄稿依頼が山積し、商賣繁盛でまことに結構なことです」と。王府井を大陸の秋の日射を受けて歩きながら、立野氏は尾崎氏に聲高にこれを話し「偉大なる皮肉ではないか」といつて二人は大笑ひをしたものである。實にそれは新秩序建設途上に動もすると生じがちな或る喰違ひの一つの原因を突いてゐるではないか、厚寒き人少しと云ふ可からず。

第一回北支陸上競技選手權大會

北支日本陸上競技聯盟並びに華北新民會體育協會共同主催の第一回北支陸上競技選手權大會は明治神宮國民體育大會北支豫選會をかねて秋晴れの七日午後二時から翌八日の日曜日に亙つて北京先農壇公設運動場で華々しく擧行せられた。これは最初の大會で、役員、選手とも素晴しいハリキリ振り、日華兩國選手の和やかな交歡風景が隨處に繰り展げられ、スタンドを埋めつくした日支兩國人は仲良く肩をならべて競技の興奮を滿喫した。大會參加の日華兩國選手は約百二十名、そのうち、在留邦人は五十名であつた。ちなみに、大會名譽會長は北京特別市々長余晋龢氏、會長は北支開發會社副總裁山西恒郎氏である。

北京ごよみ　十二月

五日（舊十月二十五日）

▽**白塔寺開廟**・西四牌樓の西、阜成門内にあり、開廟一日。參詣者遊人出盛る。この日燈火を以て白塔を飾り、喇嘛僧等塔を繞つて讀經し、法螺を吹き鼓を鳴らす。

☆　　☆

〔雜事〕

▽**冬至**・今年新曆では十二月二十三日になつてゐるが、年によつて前後あり一定せず。（舊十一月一日）

この日民家では祖父を祀り蔬菜、茶菓、酒肴をお供へする。又一般に餛飩を食べるならはしである。餛飩は日本で謂ふワンタンで、これは夏至に麵を食ふのと對してゐる。

▽清朝の制度では正月、萬壽節と共

臣祝賀に參內した。

儀式は正月に次ぐ盛大さであつたさうだ。

▽昔は長至節とか短至節とか謂つた。これは一年中で一番夜が長く、晝は短いからである。

▽**消寒圖**・この日風流人は消寒圖を描いて懸ける。これは梅の一枝に八十一の花を描込んだもので、一日一花宛彩色して行く。九九、八十一で全部濟んだら春になると云ふのであるが、此頃そんな風流人は少い。又消寒詩圖と云つて詩を書くのもある。どちらも春待つ氣持が見えて面白いと思ふ。

△**九九歌**・昔は冬至以後九九の歌があつた。曰く、

一九至二九　相喚不出手
三九　二十七　籬頭吹觱篥
四九　三十六　夜眠如露宿
五九　四十五　太陽開門戶
六九　五十四　貧兒爭意氣
七九　六十三　布納兩肩攤
八九　七十二　貓兒尋陰地
九九　八十一　犁耙一齊出

▽**月當頭**・舊十一月十五日は月當頭と云つてこの夜月中天に昇れば人影が

▽**進曆**・昔冬至の日に太史院や回回太史が曆や繪曆を献納した。市中に新年の曆を賣出すのはその後とされてゐた。

▽**論刑と釋囚**・帝制時代には冬至以前數日間に普通刑事犯の判決をした。蓋し帝王の冬至祭天は國政一年の年度更りであるからだ。而して釋放すべき囚徒は釋放した。

▽**托床と溜氷**・冬至過ぎると北海・中南海・什刹海など氷が固まるので托床が出る。これは氷橇で長さ約五尺、巾三尺、木製、下に鐵條がついてゐて三四人は乘れる。それを船頭のやうに先に金具のついた棹で漕ぐか人間に曳かすのもある。これに乘つて酒宴を張る物好もある。

溜氷はスケートで北海の溜氷場が開場になり、モダンガール達も出て來て大賑ひだ。倘この月は天然氷收藏の月である。

▽**躄鞠**・昔氷の上で恰度今の蹴球のやうな團體競技をやつた。皇帝御覽あり、以て武を練つた。

▽昔萬壽山昆明湖や北海で、太后や皇帝皇后、諸妃嬪が氷橇に乘つて、太監に曳かせて遊ばれた。

の時分に種をまく。

又百卉入室、盆景悅目とあつて日頃賞玩してゐた花卉は皆室內に持込む。

▽**時節の食物**・雉子、家鴨、猪、兎、など。珍物では熊の掌、鹿の尾が關東（今の滿洲や關東州）から來た。張家口から駱駝のコブが入り、殺虎口から豹胎が運ばれたが、こんなのは貴族の食物で料理人が下手では出來なかつた。

こんな奇食異味は此頃は殆ど見られない。

十月號訂正　34頁標題並に内容目次中「北京アルバ人村」とあるは「北京アルバジン村」の誤り。

十二月號
（毎月一回一日發行）

昭和十四年十一月十五日印刷納本
昭和十四年十二月一日發行

編輯者　北京・華北交通株式會社資業局資料課　加藤新吉
發行者　東京市麴町區三番町一　長谷川巳之吉
印刷者　小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社　君島潔
發行所　東京市麴町區三番町一　第一書房
振替東京六四二二三番
電話九段（33）一四一五番・三三四四番

一册定價　三十錢（郵送料一錢五厘）
一ヶ年分　金三圓六十錢

京阪取扱
大阪市西區京町堀上通一丁目二五
一手取扱所　一新社

Munaval

-NISSEN-

純國産新發賣

寄生性・瘙痒性 皮膚病治療劑

ムナバール「日染」

ムナバールは化學的に合成したる有機硫黄化合體ヂメチル・ヂフエニーレン・ヂスルフイドにして皮内に滲透して强力なる殺虫作用を發揮し、同時に優秀なる止痒消炎作用を呈する理想的皮膚病藥なり。

【特徴】
一、用法簡便且つ無害・無刺戟にして何等副作用を伴はず。
一、嫌惡すべき臭氣なく且つ衣服類を汚損することなし。
一、品質純良にして約二六%の硫黄を含有す。

【適應症】
疥癬・頑癬・湿疹一切・白癬・水蟲・面皰・汗疱・陰嚢頑癬・皮膚化膿疹・傳染性膿疱疹・皮膚瘙痒症其他寄生性及瘙痒性皮膚諸疾患。

【包裝】
一〇瓦（瓶入）
二五瓦（〃）
一〇〇瓦（〃）
五〇〇瓦（罐入）
一〇〇〇瓦（〃）

NISSEN

製造元 日本染料製造株式會社
大阪市此花區春日出町

發賣元 株式會社稻畑商店
大阪市南區順慶町二丁目